

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

主任教授・男性

**感じる

- ・「教育」「研究」「診療」とも効率化される。
- ・ICT機器、ソフトの利便性が格段に向上し、業務を遂行しやすくなった。
- ・PCを必ず使う以上そうとしか考えられない
- ・インフラが整備されれば、寄与するだろう。
- ・オンライン診療の発展に期待している
- ・どのくらい寄与するかは今後の推進とその普及の程度によると思う
- ・バーチャルな環境下でこれまでの実際の対面に近い経験ができるようになる。たとえば、手術前のシミュレーションがますますリアルに近いものになる、など。
- ・やり方次第だと思う。入力しにくい電子書類よりは紙ベースのほうが楽というものも経験している。
- ・移動(出張)の減少などにより時間節約ができることになった利点は大きい。業務も効率的にできる利点も大きいと感じている。
- ・移動などの時間のセーブ
- ・移動による体の負担が減った
- ・移動時間がなくなる点は大きい。
- ・移動時間が減って、時間調整がしやすくなった
- ・移動時間が減ること。オンライン会議であれば、回数も多く開催できること
- ・移動時間の減少
- ・一方でICTに適した仕事は4割近くあると考えられる。
- ・往復に費やす時間がなくなる
- ・会議や学会が効率化され、移動や待機で拘束される時間が減少するため。
- ・会場や会議室への移動時間が節約できるから
- ・各関わる時間が増えた
- ・各方面で効率よくなった
- ・学会や会議参加のための移動時間を削減し有効利用できる
- ・交通の時間が削減された
- ・効率が良くなった
- ・効率化、無駄の排除など
- ・効率化が推進された分、業務量も増えたように思うが、間違いなく効率化した。
- ・講義がリモートでできる
- ・作業時間の減少につながる
- ・雑用が減った。
- ・仕事の効率化が期待できる
- ・紙ベースの決済だと、出勤しなければ仕事にならないが、ICTであれば、移動中や在宅でも済ませられる仕事が増える
- ・時間が効率的に使える
- ・時間の自由度が増えた。
- ・時間的に有効
- ・実際にそう実感しているから
- ・場所と時間の制約が減少したため
- ・情報の共有がし易くなるはずだから。
- ・情報技術の進歩はあらゆる局面での効率化に資するから
- ・情報処理や情報交換のスピードが上がったので。
- ・職場にいなくても仕事ができる。
- ・診療、教育に関しては、効率が良くなると思う。最新情報やアイデアが重要となる研究については、マイナス要素が大きいと思う。
- ・切り替えを早くできる
- ・東京出張の機会が激減したため、教育、研究、診療に使える時間が増えた。
- ・不要な業務が軽減されるので
- ・無駄が省けるため。
- ・無駄な移動時間がないのは大きい
- ・無駄な会議への出席が減った。

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・有効に時間を使えるようになるため
- ・余分な時間が削減することができる。
- ・労働の効率化

**やや感じる

- ・ e-learning などの応用で、隙間時間に自己研鑽が行える。
- ・ ICTで完結する業務の部分は効率化が期待できる
- ・ ICT と紙の二重業務をなくせば、寄与すると考える。
- ・ ICT の内容による。かえって仕事が増えるようなことがあってはならない
- ・ ICT はうまく使えば業務の効率化につながるため。
- ・ ICT 化することにより効率は良くなるかもしれないが、人間のつながりが希薄になるような気がする。
- ・ ICT 化の内容による。
- ・ ICT 化の良さは効率性を上げる事に寄与できると思いますが、やり方次第だと思います。
- ・ ICT 化推進をサポートする専門職が必要、何でも勤務医にやらせるのでは埒らない。
- ・ SNS を利用し患者の状態などを把握しやすくなった。
- ・ ある程度効率化は進むでしょう。
- ・ うまく作れば、時間削減になりますが、実際の利用者目線でのシステム調整が不十分なため、煩雑な仕事を増やしているだけになっている場合も多いと思います。
- ・ オンラインの方が良い場面があるから(無駄な会議等)。
- ・ オンライン会議は寄与している
- ・ かえって多くの人と話す機会が増えたので。ただし、プライベートな語りは減少。
- ・ そう思うからです。その筈です。
- ・ データ処理の負担が減ると思われるため
- ・ ペーパーレス化が進むから。
- ・ まだまだ ICT 化が遅れている
- ・ もっと効率良くしてほしい
- ・ やや変化はあると思う。
- ・ 以前なら参加不可能であったろうが会議にも病院や自宅から参加できてしまう。
- ・ 移動しなくていい
- ・ 移動の時間を減らすことで効率化が得られている。
- ・ 移動の時間等の無駄な時間を削減できる
- ・ 移動時間を節約でき、空いた時間を活用できる反面、モチベーション不足による効率低下も懸念される。
- ・ 遠隔診療は可能と思います。
- ・ 会議が増加した。
- ・ 会議などでの出張時が減り、移動時間が削減された。
- ・ 会議などで遠方に行かなくてよくなった
- ・ 会議や資料作成で効率化が進むと思う。
- ・ 会議室まで行く時間が減った
- ・ 会議出張による移動時間がなくなる
- ・ 会場への移動時間を減らす分、業務の時間に使用できる
- ・ 確かに利便性は良くなっている。
- ・ 感覚的なものです。
- ・ 基本的に効率化が図れると期待します。
- ・ 教育において、事前学習が増やすことができる。
- ・ 教育以外は効率化した面はある。
- ・ 業務の効率化
- ・ 業務の効率化は図れると思うが、はたしてそれが効果の向上につながるかは検証が必要と思う。
- ・ 勤務時間削減、業務効率化には貢献すると考えるが、質が確保されるとは考えられない。
- ・ 研究・診療についてはオンラインでの学会参加による移動等の時間が削減されるため効率化が寄与していると考えるから。
- ・ 現在はあまり感じないが、寄与するようになっていかないといけないと考えている
- ・ 現場に集まる必要が無い

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 効率は上がると思う
- ・ 効率化が期待される
- ・ 効率化は出来たが、会議の絶対数が増えた
- ・ 効率的にできるようになる
- ・ 効率的にはなるが、一方で ICT に伴う脆弱性もある。
- ・ 今はわからないが、効率的なるかもしれない
- ・ 座学の講義はすべて WEB で行えば、実習などより有意義な時間をひねり出せる。
- ・ 最終的にはそうなってほしいが、まだ十分実感はできない。
- ・ 使い方次第だと感じている
- ・ 資料を印刷する労力がなくなるため
- ・ 資料共有の簡易化
- ・ 資料作成の手間が増えたが全体としては時間短縮や効率化に寄与している
- ・ 時間の使い方の変化
- ・ 時間的余裕が生じた
- ・ 時代に則しては当然そうならなければならないと考えるが、いずれの分野に関しても効率性だけでは質の維持や向上は望めない気がする。アナログ的側面も併用する方向が必要ではないかと思う。
- ・ 次官が効率的に使える点はある。
- ・ 自宅からも参加できると通勤時間が節約できる
- ・ 出張が減って、時間が有効に使えるから
- ・ 出張時間が無くなるので
- ・ 準備が大変だが、一度準備すると応用しやすい
- ・ 少なくとも労働時間の短縮には寄与すると思う。
- ・ 上手に利用すれば、効率化を促進できる。ただし、それなりの工夫が必要である。
- ・ 場合によっては寄与することもあると思う
- ・ 通信技術をうまく使えば、効率よく進めて行くことが可能な部分もあるだろう。
- ・ 同じ業務の繰り返しは減ると予想している
- ・ 無駄な会議が減った。
- ・ 無駄な会議への移動が不要になった。
- ・ 無駄な時間が減るため。
- ・ 明確な根拠はない
- ・ 良い点、悪い点があるため、総合するとややよい程度と考える。
- ・ 良い面も当然あるが、実際としての経験が重要であるから。
- ・ 連絡等が容易になる。教育にかかる時間が減る(学生の学習効果が低下する可能性がある)。

**あまり感じない

- ・ ICT ではカバー出来ない領域が重要だから
- ・ ICT 転換への準備業務が顕著に増えた。
- ・ ICT を使いこなすために時間がかかる 業務の専門家がいらないため自分で行わなくてはならない
- ・ ICT 以前に根本的な効率化の必要性が高いように思われる。
- ・ ICT 化が進んでも、それに対応するための準備が必要であり、大きく効率化が図れているとは思えない。
- ・ ICT 化したものを勤務時間内で行わなければ意味が無い
- ・ ICT 化するのに新たな業務が増えているため。
- ・ ICT 化といっても従来と変化を感じていない。
- ・ ICT 化の活かし方が分からない
- ・ IT は得意ではない
- ・ output がはっきりしない
- ・ この 3 つを効率化することは ITC では困難である。
- ・ コンテンツをこちら側が用意するのであれば負担が増す
- ・ スタッフが少ないと結局手作業をしないとけない。
- ・ それほど進んでいないため。進めようとしても予算が回ってこない。
- ・ たいして ICT 化は進んでいないから

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・どこにいても仕事ができる→仕事量が増加するのみ
- ・なにを使ってもそれに使う時間は同じに必要だから。
- ・メールでの書類の丸投げが事務から来る頻度が増え、余計時間を取られる。
- ・移動時間がなくなる分は効率的になるだろう。一方で病院・大学・学会等が各個人に課す課題ないし業務(e-learning 等)は増える一方であり、せっかく得た効率化を打ち消している。
- ・会議は楽になったが「教育」「研究」「診療」の勤務時間削減や業務効率化に寄与するとは思えない
- ・外科医の手術は直接患者と接することが必要だから
- ・学会・研究会の教育講演、学会等の会議で移動する必要がない、こと以外はメリットを感じない
- ・教育・研究の質は ICT では悪化することがあるため、ICT 以外の方法が依然として必要であるため
- ・教育研修における受講生の受講態度を把握できなくなった。
- ・業務そのものがなくなるわけではないので、効率化できるかは不明と感じる。
- ・業務効率化は事務作業のことが多い。しかし、事務側の ICT 化が遅れており、紙媒体が多いなど効率化をあまり感じない。明確に電子ファイルを拒否して紙媒体の提出を要請する部門もあり、ICT 化を推進していない。
- ・結局、医療や教育は、対人サービス、という側面が大きく、もし ICT 化によって業務効率化が図られたとしても、その分、今まで不十分であった対面でのサービスに転嫁されるだけだと考えるから。
- ・研究には良、教育にはマイナス、診療には影響なし
- ・現時点ではわからない
- ・現状のレベルの ICT 化では実感できない
- ・効率化できた分、作業の量が増える
- ・効率化に寄与するほどこなれていない。
- ・仕事の時間が減るから。
- ・使いにくいし、理解が追い付かない。
- ・時間外のオンライン会議や時間内でも会議の回数が増えている
- ・質の低下を招かないようにするための具体的な手立てが思いつかない。
- ・質は低下する可能性があるから
- ・実効性が不明
- ・実態がつかめない
- ・出来た時間でさらに違う内容の仕事が増えている。
- ・準備に時間がかかる
- ・常にメールや ICT に時間を支配されており、管理業務が多く、自分の時間は元々全くなかったが、自宅でも更に気が休まる時間がなく、悪いことの方が多い。
- ・他に効率化できることが多いため
- ・対面でなければできない仕事をしている。
- ・良い点、悪い点 両方ある

**ほとんど感じない

- ・ICT により管理する場面およびそれにかかる時間が増加しています。
- ・ICT への対応に多大な労力を割く必要があるため
- ・ICT 化は、ブルシット・ジョブの効率を高めた一方、ブルシット・ジョブの数をふやしたため、負担がへった実感がない。その一方で、ICT 化により、エッセンシャル・ジョブの質が低下した。
- ・オンラインでは隙間なく別々の主催者が開催する会議などに出席できてしまい、業務と仕事が増えているため。移動時間がないため 20:00 からの会議など容易に設定されるようになったため。
- ・この3つに関しては変わらないか、議論の深まりがなくなることによる悪化の影響が大きい。
- ・以前から全力なので
- ・医学・医療は五感を駆使するものであり、現状ではすべてをデジタル信号に置き換えられると思えない。
- ・求められる業務量や処理速度も増加しているため
- ・教育研究診療は対面でないと機能しないことが多い
- ・効率化はあるが、それに伴って仕事量は増し、早く進むため、仕事量は減らず際限がない。
- ・作業量が増えると思う
- ・雑務が増える。in person のほうが楽で単純で無駄がない
- ・実際に変わっていないから

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 実体験としてあまり変わっていないため
- ・ 週末に数多くの zoom meeting が入り、移動時間は減ったが、実質の労働時間は減らない
- ・ 直接対話しないと成り立たない職種だから。

主任教授・女性

**感じる

- ・ オンライン会議が増えることで、移動時間が少なくなる
- ・ よいシステムを入れれば
- ・ 移動の時間が減る。
- ・ 作業の自動化により、自分の時間を割かなくて良くなった
- ・ 手作業が減る。
- ・ 出張回数が減る
- ・ 新型コロナに感染し自宅療養の期間も、ICT を使って講義をすることもでき、会議にも参加することができた。
- ・ 電子カルテを iPad や自宅でみられるようにしてほしい。患者診療もリモートが可能になればよい
- ・ 電子媒体が効率よく利用できるため
- ・ オンデマンドなどで繰り返し視聴できる

**やや感じる

- ・ ICT への慣れにおいて、教員間の相違がある点は難点ではあるが、ある程度寄与すると感じる。
- ・ ズームでの会議で、遠方の研究者との意見交換がやりやすくなった
- ・ 期待したいところだが実感はない
- ・ 自宅でも仕事ができるようになり、出勤する必要性がなくなる可能性もある。
- ・ 実感しているのではなく、期待する
- ・ 無駄な移動時間が減る。

**あまり感じない

- ・ ICT 化の内容によっては、かえって負担が増えたり、現状に即していないことがある
- ・ オンライン化によってさらに会議が増えたが、「教育」「研究」「診療」の勤務時間に影響しないため

教授(主任以外)・男性

**感じる

- ・ ICT を駆使して効率的に業務を実行できるため。
- ・ on-line で可能な業務が多くなったので業務は効率化していると感じる。
- ・ 移動時間が必要なくなるから
- ・ 移動時間が無くなり、効率化が図れる。一方、直接のコミュニケーションがとれず、戸惑いも感じているが、年配者の心配なのであろうと考えています。若い世代は直接のコミュニケーションをとること自体がなく、問題は無い(考えたこともない)のだと思います。
- ・ 移動時間の減り大変効率的になる。
- ・ 移動時間の短縮
- ・ 会議をこまめに開催できる。
- ・ 学内外の義務的な会議や講演、学会への交通時間が節約できるので、本業に時間を回せる。
- ・ 間違いなく、業務の時短を図れるから。
- ・ 現状色々当院も行なっていますが効率化が進んでいると実感しています
- ・ 効率的に業務を済ませることが可能になると予想されるから。
- ・ 使い次第では効果的だと思う
- ・ 紙媒体管理の減少
- ・ 時間が有効につかえる(移動時間の短縮)
- ・ 時間と空間を有効に使用できるため。また、情報の共有性にも優れるため。
- ・ 時間の無駄を減らせることが最も大きい。
- ・ 自宅ですむ自宅ですむ
- ・ 手間の省力化、迅速化が期待できるので。

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・出張が減った
- ・対面とオンラインの使い分けが進む
- ・無駄な時間:資料作成、準備などが削減できる。
- ・無駄な時間の削減
- ・無駄な出張時間の削減

**やや感じる

- ・ICTが具体的にどのような点でいかされるかよくわからない
- ・ICT化する領域を見極める必要がある
- ・うまく利用できれば効率化につながると思う。
- ・オンライン講義があるから
- ・これまで対面で行われていた部分がICT化されれば、移動に浪費していた時間は削減できるメリットがある一方で、オンライン会議の開催に向けたハードルが下がり、オンライン会議そのものの数が増えた印象があるから。
- ・ズーム会議の増加は、効率化につながる
- ・それぞれの業務にICT化は不可欠で、導入することで業務は円滑になると思います。
- ・テレワークの促進により、職場以外でも働ける。
- ・リモートで教育、診療が可能になれば時間短縮につながる
- ・安全管理の向上が期待される
- ・移動が減る。事前学習などに利用し、F2Fでは以前より深掘した授業などが可能
- ・移動の負担は減ったが、学会休診は難しくなった。
- ・移動時間減少。
- ・移動時間等の削減は大きく寄与はする
- ・一般のクリニックでは、問診をiPadでおこなっているとき、大学はいまだに旧式に患者と対面で問診している。しかも、看護師が問診してさらに医師が問診する。患者にとってみると、同じことを何度も聞かれて疲れるそうだ。しかし、看護師が問診したものは、カルテに記載されず、問診票というものに記載される。医師は仕方がないので、その問診票を患者に確認しながら電子カルテに記載するしかない。およそ時間の無駄である。
- ・閲覧や資料作成など紙面でのやりとりの時間短縮、情報検索など効率化
- ・遠隔診断などには有用である。学会はオンデマンド配信があれば休日、時間外に自己学習が可能である。会議は時間などを考慮しないと手軽に開催できてしまうので、時間などの検討をした方が良い。
- ・会議に参加しやすくなる
- ・期待感はある
- ・勤務時間削減や業務効率の議論と、教育研究診療の進め方の議論は違う次元の話ではありますが、工夫次第で何とかかなりそうなイメージを持っています
- ・具体的にはよくわからない。
- ・効率が上がる
- ・効率が良くなると考える
- ・効率はよくなるが、現地での出会いなどが無いのでモチベーションアップにはつながらない
- ・効率は間違いなく良くなるが、どの程度かはわからない。
- ・効率化につながる部分がある一方で、いつでもどこでもしなければならなくなり、非効率な部分も増えたように思います。
- ・効率化は図れると思う
- ・効率化は大事
- ・今のところは実感できていないが、利用の仕方次第であり、自分の願望で上記を選択した
- ・最初には時間が取られても、次回からの修正が楽になる。
- ・紙ベースは時間の浪費
- ・時間ができるため
- ・時間の自由度が上がることによる時間の有効利用が可能
- ・時間の節約につながる。
- ・時間の短縮はできそう
- ・時間短縮と情報の質の向上が図られている
- ・時間短縮には寄与すると思います。
- ・実施する側と受ける側の成熟が必要。

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・出張が減った
- ・診療に関しては情報が増えよかったです。教育には悪影響、研究にはひどい打撃と思います。
- ・短時間の会議のための無駄な移動時間が減ったと思います。
- ・無駄な出張や会議がオンラインで済むのはよいこと。
- ・余分な負担は減ると思われま。
- ・利点:学会などの参加による時間・場所の制約がなくなって時間的余裕ができた。
欠点:最新情報を肌で感じる熱量が減少した。
- ・領域によっては、やはり効率よくなると考えます。
- ・連携が取りやすくなる。

**あまり感じない

- ・ICT化、例えばe-learningの教育コンテンツを作成しても、今後対面授業となれば特に変わりはないと考えます。
- ・いずれの業務も対面で行うことが重要なので、以前と変化なし。仕事が増えたと思う。
- ・コストをかけるか、我々の時間を使われるか、いずれにしてリソースをかなり食う。
- ・その分雑務が増えるから
- ・まだまだ我が国のICTはレベルが低いので、メリットを強く感じたことはありません。
- ・一見無駄な部分が大切だと気付いたので
- ・嘘の申告が増えるだけ
- ・管理者の業務は増加する可能性が高いように感じる。
- ・逆に、準備のために必要な時間が増えた気がします。
- ・結局、大学医学部の臨床で働く医師にとっては、現場で動かねばならないことが多いため。
- ・講義や研究発表に準備する時間はあまり変わらない
- ・削減まで浸透していない
- ・時間の節約になる一方でICT化を介したコミュニケーションは人と人の関わりの密度を減らすから
- ・実際にやってみないとわからない
- ・十分な活用ができていない
- ・診療、研究には、ICT化の恩恵は現時点で感じない。
- ・多くのシステムの完成度が低く、かえって時間がかかるなどの問題点が多い。
- ・大学病院のこれまでの低賃金での長時間の働き方に、無理がありすぎたため、同じ質を若年者が維持すると考え難い。
- ・導入予算がない
- ・本当に理解して運営できるかが疑問
- ・良い点と悪い点の両者があるので、
- ・良い面も確かにあるが、効率化と成果は必ずしも一致しない。反対の結果を招くこともある。

**ほとんど感じない

- ・ハイブリッドの名の下、両方する必要があるため
- ・医師の仕事には、人と触れ合わなければ最高の効果を得難いもの、手取り足取り教えなければ伝えて行けない技能が沢山ある。
- ・患者さんへの業務など一切変わらないため
- ・結局別の業務が増える
- ・仕事量はむしろ増えている
- ・短縮化につながるようなアプリがない
- ・量が増えるだけ

教授(主任以外)・女性

**感じる

- ・会議への移動がなくなって快適。ただし内容は薄くなる。録画や録音されると内輪話はできなくなる。
- ・距離の不利益が軽減される
- ・業務の効率化と移動時間の短縮。
- ・効率化できる
- ・講演をWEB視聴できることにより、移動時間を削減できる。

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・進みすぎることの弊害は気にしておかなければならないと思う。教育においてコミュニケーション力が低下している。

**やや感じる

- ・ICT化推進により、診療以外の在宅等でできる仕事(教育の準備や研究の一部)は増えてしまうので、総仕事量はあまり変化がないように思う。ただし、家庭に関わる時間の調整はしやすくなり、効率化には繋がると思う。
- ・移動効率
- ・移動時間がない
- ・移動時間の削減は大きな時間の節約になる
- ・現時点のシステムや利用法ではまだ不十分だが、今後改善が期待できると思う。
- ・効率よく会議などが進む
- ・時間短縮

**あまり感じない

- ・移動に費やした時間を削減でき効率的に会議に参加できるが、その分会議が隙間なく設定され、仕事が増え、研究が出来なくなった。
- ・ICT化が浸透するには資金や時間が必要だから
- ・ICT化だけではだめで、それをサポートする医師事務が増えないと医師のゆとり時間は増えない。
- ・ICT業務に慣れていない教員にとってはかえって時間がかかる、問い合わせが多い
- ・教育に関しては学生の意欲が下がっているように思われる。
- ・効率化は期待できるが、管理がおろそかすぎる。

准教授・男性

**感じる

- ・Webでカルテ記載・閲覧ができれば在宅でも診療や研究ができる。
- ・いずれそうなっていくと思う。
- ・オンライン化が進み、移動などの時間が削減できる
- ・クリニカルパスの活用促進、デジタル診療情報を利用した業務の短縮が可能
- ・どこでも会議に参加できる(web会議)。データ紛失の危険がない状態でどこでも仕事ができる(クラウド保存)。
- ・リテラシーが高い方はとても有力なツールとなると思います。
- ・移動などの時間が削減できるため。
- ・移動の時間が減る。
- ・移動の時間が少なくなるため
- ・移動や無駄な待機時間がなくなっている
- ・移動時間がなくなる
- ・移動時間の削減、都合のよい時に見られるオンデマンド講義など
- ・移動時間の削減、任意の時間での情報収集できる機会が増えたため。
- ・移動時間の節約 移動のハードル低下によるメリット
- ・遠隔読影が可能となった
- ・会議でいちいち集合する必要がない。移動の時間も節約できる。
- ・会議などがオンラインとなることで効率的になったと感じる
- ・会議は極力オンライン化した方が効率的であると思います。一方で、教育や研究に関しては対面方式の意義が大きいため、適応範囲に関する議論が必要だと思います。
- ・各業務の効率化がなされると思う為
- ・学会や会議(院外)における効率化が大きい
- ・学生教育は繰り返し同じことを話すだけであり、動画で十分
- ・機械ができる仕事が任せられて、自身の業務の効率化が見込めるため
- ・業務の効率化には役立つ。
- ・業務効率化にはとても有効と感じます。
- ・研究・診療・教育いずれもあらゆる情報の入出力が簡便になったから
- ・効率化による時短が期待できる
- ・効率的に時間を使えるようになる

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・資格取得と維持、及び知見を広める目的の聴講を要するレクチャーや学会参加実績について、移動時間を考慮せずに済むことは、全ての面において非常に大きい。
- ・事務仕事の軽減が見込める。
- ・時間の制約が減った
- ・時間の節約・有効利用が可能となった。
- ・時間や場所を選ばずに仕事ができるようになると期待している
- ・手段の一つとして有効。
- ・授業のために、休診にしなくてよくなった。
- ・総じて、移動の時間を気にしなくてよくなったので楽。
- ・必要な情報がすぐに手に入るから。
- ・不要な設定時間が削減できた。
- ・便利なシステムを使いこなせば、業務の効率化につながると思う。
- ・本当に ICT 化されれば、効率的になることが期待できますが、中途半端だと逆効果だと思います。
- ・無駄な時間が削減できる

**やや感じる

- ・ICT を使いこなすのに学ぶ手間を取られる。
- ・ICT 化で減る作業もあるから。逆に増える作業もあるが。
- ・ICT 化による情報量の増大による情報収集に時間が取られる。効率化に寄与はするが、時間に縛られず情報が送られてくるため勤務時間はかえって増加する。
- ・web 会議は効率がよく参加者が増やせる。一方個人情報を含むカンファレンスはしにくい。
- ・いい面もあれば悪い面もある
- ・うまくやれば。ただ日本人は仕事を増やすばかりで減らすのが下手だと思います。結局余計な仕事が増えて終了になるのでは。
- ・うまく利用できればの話
- ・オンデマンドの講習会が増加した。
- ・オンラインはやはり楽
- ・カルテ記載が楽になった
- ・チーム診療における迅速な情報共有には有用である
- ・ペーパーレスや AI の登場などで、業務負担の削減に寄与する可能性
- ・リモートでの移動時間節約が大きい
- ・移動の時間がなくなった
- ・移動や集合など無駄の削減
- ・移動時間が軽減できるというメリットで。
- ・移動時間が削減できるのはよいことと思います。
- ・移動時間が省略できるから
- ・移動時間は減るが、その分勤務時間外に電子メールなどのチェック作業が増えるように思うため
- ・医療過疎地域などに対する遠隔診療は今後も発展していく余地がある。
- ・何か変わる気がする
- ・会議などが Web で参加できる
- ・学会の委員会出張が少なくなる。
- ・学会や会議のため移動する時間が少なくなった
- ・学会関連の業務で必ずしも現地に赴く必要なくなり、無駄な時間や労力が減った。学内外の会議のオンライン化による負担減。
- ・学会参加や教育コンテンツの配信上は有利。診療に関しては情報収集が容易になる。
- ・学会出張のための移動や宿泊による様々な教育・研究・診療についてのスケジュール調整が大部分不要となり、その面では非常に助かっている部分はある。しかし、学術的なコミュニケーションはやはり対面の方がより深められる部分もあり、一概にメリットばかりではない。
- ・学会渡航が不要となる点。
- ・慣れたら同じ。ただ、Web ミーティングの回数が増えたので、結局は同じこと。
- ・教育と研究だけ。
- ・教育と研究には一定の効率化が見られるため
- ・教育に関しては効率化を求めるべきではない。

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 教務の効率化がはかれるから。
- ・ 業務の効率化は可能性がある。反面、会議やミーティングが簡単に行えるようになったため、業務時間外にも会議やミーティングなどで時間がさかれてしまう。
- ・ 業務効率化が進むと思われる
- ・ 結局 ICT で浮いた時間を他のことに回すだけで、総労働時間は変わらない。ただ、希望はある。
- ・ 現地への移動時間が削減されるが、コミュニケーションは不足する。
- ・ 効率が良くなるため。
- ・ 効率は良くなったが、質は不明
- ・ 効率化には寄与する可能性がある
- ・ 効率化を実感できる場面も多いが、他方で効率化のためでなく、「ICT化」自体が目的となったICT化が無理やり導入され、その結果、システム側の整備が追いつかず、返って業務の質が落ちている分野もある。
- ・ 効率的になった。
- ・ 今後 ICT に慣れてくれば、効率化が進むと思う
- ・ 参加負担が減ったように感じる。
- ・ 使い方次第と思う
- ・ 紙で何回もやりとりするより、メールやファイル共有などでこれまでよりスピーディーに事が運ぶようになった。
- ・ 時間を効率的に使える
- ・ 時間的配分の効率化
- ・ 実際に導入できれば
- ・ 省けるものは省いてきたため
- ・ 情報共有がすすみ、効率的な運用のサポートが期待できるため
- ・ 情報整理の時間が短縮できるため
- ・ 診療の負担が大きい
- ・ 整備がまだ
- ・ 総合的に考えてやや軽減
- ・ 対面での一定の関りは必要であると思うので
- ・ 調べ物、検索が楽
- ・ 便利な面はあるので
- ・ 無駄と思うことを省けるようになった
- ・ 無駄なものを省くことが可能となる可能性がある
- ・ 無駄な時間の節約となる可能性がある。
- ・ 無用な移動時間が削減されるのは、効率化につながると思われる。
- ・ 明らかに時間短縮には役立っている
- ・ 有効な ICT 化がなされることが前提です。
- ・ 録画講義が増えた

**あまり感じない

- ・ ICT をある程度自由自在に使える世代の人達とは効率に作業ができるが、そうでない人達には機器の使用方法などから説明しなければならず、二度手間になることも多い。
- ・ ICT 化がどこまで取り入れられるかわからないから
- ・ ICT 化が完全なものではないため、逆に時間を費やすケースも存在するため。
- ・ ICT 化して、時間削減できるのは事務職がほとんどであり、どちらかというと医師の入力作業は増えている印象のため。
- ・ ICT 化とは何か具体的に見えない
- ・ ICT 化の実感がないため
- ・ ICT 化の推進が具体的にどのような業務の効率化に寄与するのか不明である。
- ・ ICT 化の推進のみでは業務量が減少するとは感じられない。タスクシフト・タスクシェアリングとともに推進できれば、業務量減少に有用かもしれません。
- ・ IT の使い勝手による
- ・ PC 前にいる時間が長くなりそれゆえの疲労が蓄積し能率は落ちる
- ・ ある時間が減っても楚歌の業務に回るだけだから
- ・ オンライン講義の録画は実際の講義より時間がかかる

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・この国の対策は常に絵に描いた餅
- ・これまでも繰り返されたことであるが、新しいことが始まればその業務遂行のためのあらたな課題や調査が出てきて、さらに多様な業務が増す可能性があるため
- ・その分、多くの会議に参加しなくては行けなくて、仕事量は増えた。
- ・そもそも ICT 化されていると感じない。
- ・それほど感じない
- ・どうしても人相手の仕事なので、ICT 化で改善することは少ない
- ・ネットへの接続やソフトの設定などする雑用が増えた
- ・まだ実感がない
- ・やる事は増える
- ・移動時間は、労働時間に換算されないのでは。
- ・一見、良くなるようにも思えるが、ICT 化した教育でどれだけの効果が出るか現段階では疑問。
- ・期待はしています。
- ・業務・勤務に換算されない時間の削減の方に貢献しますが、業務効率化、勤務時間削減には貢献しないと思います。
- ・具体案が見えない
- ・具体的な ICT 化の効果を実感したことがないため。
- ・具体的な利用法が解らない。
- ・現在の ICT 化は、手段が目的化しているため、本来の勤務者の負担を減らす目的から外れて、むしろ細々とした雑用や入力等の事務作業が増える方向にあると思う。
- ・現状ではアナログとデジタルが併用されているシーンが多々見られ、業務が増えた印象しかうけない
- ・今までとやるべきことは変わらないため時間もかわらない
- ・仕事量は変わらないから
- ・時間的には、あまり変わらないと思うので。
- ・質の担保ができない
- ・実感できない
- ・実際にかかる負担は変わらない
- ・実際行われていないのとまだ以前のものが残っていて両方やらないといけない
- ・手間はほぼ同じ
- ・授業料が無駄
- ・正直よくわからない
- ・全体の業務内容が減らないため
- ・大学の就労医師数が減ると予想されるから。
- ・負担が軽減しているだけでなく、逆に増加しているものもあり、なんとも言えない。
- ・毎日忙しい
- ・臨場感が伝わらない。対面でのやり取りと比較して質、スピード感に劣る。

**ほとんど感じない

- ・ICT化の推進により既存の勤務時間削減や業務効率化が達成できたとしても、別のタスクを割り当てられる可能性が高いから
- ・ICT 化への対応によりむしろ作業量増えているため。
- ・Web で学会・研究会・会議に参加する時間は、休日・夜間となっており、勤務時間削減や業務効率化からは逆行している現状が既にある。
- ・オンラインの時間も拘束されているため、移動時間の節約のみ
- ・すでに ICT 化は進められるところは進めているら良いと思うが、その判断基準は確立されているのか疑問である。現状 ICT 化の利益を強調するより危険性をきちんと認識すべきと考える。人は実際に会い、顔を合わせて話さなければ、信頼関係を構築することは極めて難しいことと考えている。こうした点がきちんと検証された上で ICT 化されているのであろうか？
- ・デジタル社会が根付いていない
- ・やることは変わらない
- ・家庭での仕事時間が増えるので変わらない気がする
- ・会議が手軽になると、会議ばかりになります。日曜日の夜中の会議にも参加しなければならぬ時があります。
- ・管理職はより診療業務が減り、労働者はタスクが増えている。管理職と労働者の分断が悪化している。
- ・結果として 以前よりも仕事が増えており、まったく効率化が進むとは思えない。

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 結局紙ベースだから
- ・ 今のレベルの ICT 化では進まない
- ・ 使用法に慣れるのに余分に時間がかかる
- ・ 準備に必要な時間が増えた
- ・ 推進がうまくできていない
- ・ 洗練されたものではなく、使用者の立場で作られたものではないように感じられる 型通りの作業には向くかもしれないが、それ以外については融通がきかず、逆に時間がかかる
- ・ 特に改善したとは思わない

准教授・女性

**感じる

- ・ 移動の時間が削減できる
- ・ 移動時間がなくなり、効率よくできるようになる。
- ・ 移動時間がなく業務に集中できるようになったと思います。
- ・ 移動時間が不要になった。
- ・ 効率化できる
- ・ 時間管理がより厳密になる

**やや感じる

- ・ アクセスが容易になる
- ・ きちんと機能すれば効率化につながる、質がおちないかが懸念
- ・ 移動しなくても会議や講義ができるのはメリットである。一方で対面でないとできない内容も多少あると感じる。
- ・ 移動に要する時間が減るから。
- ・ 遠隔でも講義などが行える
- ・ 会議や学会に参加しやすくなった
- ・ 記録に残しやすくなった。
- ・ 教育については Web での学生評価等、システムが様々ありそれぞれによって操作法などが異なりかえって面倒になった。
- ・ 教育は ICT 化が進むとよい
- ・ 教育分野では移動せずにグループディスカッションができるなど、移動時間の短縮、ファシリテーターの人数削減が可能となる。臨床分野では短時間で最新の知識が得られる。
- ・ 現時点は思いつかないが、やりにくさを感じているところを ICT で改善できるはず。
- ・ 現地に出向かなくても参加できるセミナーが増えたことは利点だと感じる。
- ・ 効率化は図れるが、対面で教育しない、議論しないことのデメリットはある。
- ・ 時間が自由に使えるため
- ・ 情報へのアクセスが容易
- ・ 人員の削減につながる
- ・ 登壇・視聴どちらも物理的な制約がなくなりつつあるので。
- ・ 同じことを何回もする必要がなくなる
- ・ 無駄な会議の時間の短縮は、あるが、まだ、採用が少ない
- ・ 無駄な労力を削減できると期待しているから

**あまり感じない

- ・ やらなければならないことは、減っていないから
- ・ 完全に ICT になりきらず中途半端なため結局負荷が増えるだけ
- ・ 慣れの問題か、技術の問題か。現時点ではあまりメリットを感じない。
- ・ 寄与するはずであるが有効利用できていないし、そもそも導入に積極的でない
- ・ 具体的なイメージが未だもてない。
- ・ 結局使いこなせていない
- ・ 現状で飽和状態。

准教授・回答しない

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

**やや感じる

- ・移動の負担が減る

**あまり感じない

- ・不明。医師の業務量は変わらない

**ほとんど感じない

- ・ICT以外の業務の負担は減らない。
- ・業務の量は増えている。このアンケートに類似したアンケートが多い。
- ・今のところ変化を感じないので。

講師・男性

**感じる

- ・オンラインが良いため
- ・オンラインでの会議、講習、単位取得により、時間と手間が削減できる。
- ・オンラインやICT化により、会議や書類関連の仕事が勤務時間内に行われれば、時間外勤務が減り、また勤務時間内で自分が自由にできる時間が増えるから。
- ・オンライン会議などの活用が進み自由度が上がったため
- ・オンライン会議への遠隔参加で無駄な会議に拘束される機会が少し減ったから。
- ・このようなアンケートすら昔は記述でやっていたので、隔世の感がある。
- ・ただ、増えることもあるため相殺されている気がする。
- ・できる限りオンラインに移行することで業務時間削減や業務効率化につながる。
- ・とにかく北海道からの移動は不便で時間の無駄
- ・なんとなくそう感じるため
- ・ネット参加による余分な時間節減が可能。
- ・より多くの、別の場所にいる人が討論に参加できる。
- ・移動、宿泊せずに済むため、「教育」「研究」「診療」を中断することなくなり、効率的である。
- ・移動・集合の時間を削減できる
- ・移動が減るため
- ・移動が不要になる
- ・移動による肉体的なストレスや時間の消費が軽減された。自分のオフィスで業務が完結する。場合によっては自宅でも対応できる。無駄な時間がなくなったことで、必要な業務に割ける時間が増えた。
- ・移動の時間がなくなることは好ましい。教育を受ける側の都合は考えない場合だが。
- ・移動の時間が少なくなるため。(ただし、直接会って話をするメリットはあるため、すべてが補えるとは思わない)
- ・移動や集合手配の手間が減るから
- ・移動や宿泊等に伴う負荷が減少し、様々の行動に対するハードルが低くなった。結果として活動は効率化されると考える。
- ・移動時間がなくなり、情報へのアクセスが容易になる。
- ・移動時間が減り、場所や時間に融通がきくようになる
- ・移動時間が削減できます(三分野)。ビデオであれば繰り返しの必要性が減少します。学生からの質問を公開すれば知識を共有できます(教育)。研究者間のコンタクトが減少するのは異分野のコミュニケーションには不利かもしれませんが。情報を上手にピックアップできる人が生き残りそうです。
- ・移動時間が省略されたため
- ・移動時間の削減
- ・印刷物が減った。移動時間が短縮された。
- ・遠隔地の病院との連携が進むことを期待しています。
- ・海外出張等の移動時間がなくなる点は非常に影響が大きい
- ・患者情報の共有がスムーズ。リサーチが楽
- ・教育には外せないツールになっているし、研究、診療においてはプラスアルファの情報が得られるため今後は欠かせない。
- ・業務の効率化が進む
- ・現地に行かなくていいので時間短縮になっています。
- ・現地開催がない場合は、移動時間がないため、その分の時間が増える。

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 効率はすごく良いが、学生が理化していない気がする。
- ・ 効率化が進むため。
- ・ 効率化する部分はかなりあると思われる。勤務時間の減少にもつながるとされる。
- ・ 在宅勤務はしやすくなる。
- ・ 紙資料の削減、時間の有効活用ができるようになった
- ・ 時間が確保出来るようになるため
- ・ 時間が節約される
- ・ 時間と場所に縛られなくなるため
- ・ 時間の節約になり負担が軽減される。移動時間等。
- ・ 実際に勤務時間の削減、出張削減により仕事を休まなくてもよくなった。
- ・ 場所の移動が必要ないので、効率が良くなると思う。
- ・ 場所を選ばず参加できるため
- ・ 場所を替える手間がなくなるから。
- ・ 地方の外来診療もオンライン化出来るところはすべきと思う。
- ・ 中途半端な ICT 化ではむしろ効率化が下がるので注意が必要
- ・ 電子化により、必要な情報にすぐアクセスできる。
- ・ 電話診察が可能となり外来時間が短くなった
- ・ 必要ない指導時間の縮減によるもの。
- ・ 北海道は首都圏へ飛行機でしか移動できないため、無駄な時間、お金が削減できる
- ・ 無駄が無くなる可能性があるため
- ・ 無駄な移動が減った、現場に行く必要性がないものはオンラインで十分
- ・ 無駄な移動時間が不要になった
- ・ 無駄な作業が減るため

**やや感じる

- ・ ICT の使い方による。効率化の可能性はあるが、オンサイトの代替という位置づけでは不便さは解消されない。
- ・ ICT を用いて行う学会や研究会が以前より増え、情報量は増え、効率よくなっているところもあるが、その分、勤務時間や職務に関係することをやる時間はやや増えている。
- ・ カルテ情報を病院間で送信できるようになれば、多に診療に寄与すると思われる。”
- ・ ウェブ会議の増加
- ・ オンデマンドなどの活用ができるため。
- ・ オンライン診療で診療の効率化が図れる
- ・ そうなるように画策できると思うため
- ・ デバイス次第
- ・ ネット環境を利用は、利用の仕方によっては効率化に寄与すると思う。
- ・ リアルで集まる必要性の高いものに集中できるようになる
- ・ 移動のための時間が不要。
- ・ 移動の時間が減る事は良いと思う。
- ・ 移動の時間を減らせることができる可能性がある。
- ・ 移動の手間が省けること
- ・ 移動時間が削減され、効率化に寄与する
- ・ 移動時間が短縮されることが非常に有効である
- ・ 移動時間が不要になる点、複数の場所から英語論文抄読会等に参加できる点などが教育の効率化につながる。当科では処置があるため、診療の効率化は難しい。
- ・ 移動時間や拘束時間の短縮、複数回に分けた会議も実施可能(1回の時間を短縮できる)
- ・ 移動等の時間が減るのは効率の改善に寄与する。
- ・ 一部の業務が、ICTにより効率化されたと感じる。
- ・ 会議や書類に費やす時間は減る可能性はあるがまだ十分ではない。
- ・ 会議や診療の一部などは有用であるが、教育についてはまだ有効利用にはほど遠い。
- ・ 皆が効率化ばかりを求めて、効率の悪い仕事を避けるようになってきている。
- ・ 活用できていない。

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 休診せずに学会参加できるメリットがある。
- ・ 共有が早くなった
- ・ 教育と研究には効率化に寄与するが、診療には現状ではあまり寄与していない
- ・ 教育において初回の講義資料作成はストレスではあるが、次年度などにも活用でき、結果的に負担の軽減につながっているものと思われる。
- ・ 業務の委託ができる可能性が高まるため
- ・ 業務効率が軽度改善した
- ・ 業務効率の向上のため
- ・ 勤務の都合で参加できなかった学会にも参加できるようになった
- ・ 経営層のリテラシーが変わらない限り、解法は導き出せない
- ・ 現地まで行かないことによるメリットとデメリットが混在すると考えるがより多くの学会に参加できることができるため
- ・ 交通に要する時間が減った
- ・ 効率は良くなりそう
- ・ 効率化として、移動時間の短縮が大きい
- ・ 講義をアーカイブ化できるから
- ・ 雑務が減るため
- ・ 雑務の効率化が進むことを期待する
- ・ 雑務の効率化が図れる。
- ・ 紙処理が減る。郵送の手間が省ける
- ・ 時間の節約がしやすい
- ・ 時間短縮という観点からは有効。
- ・ 自身の時間がやや増えたため。
- ・ 自宅から遠隔参加できれば効率的はあるが、「ながら」による弊害もある。
- ・ 自宅から講義をしたり、録画した授業を流せば労力を削減できる
- ・ 実態を把握することで、不必要な業務な洗い出しなどができるとは思う。しかしながら、そのデータを使う上層部が、そのような改革に疎く、改善するためのノウハウがあるとは思えない。
- ・ 授業を録画するなど、省力化すれば。
- ・ 書類などの参照がしやすくなったりする点は効率化されてきたと感じる。一方、管理業務などが一部の管理者権限のある医師に集中するようになり、より業務が増加している。
- ・ 情報の伝達スピードがあがると感じる。
- ・ 情報交換の速度が速くなった。また会議で集合する手間が省けた。
- ・ 診療の効率化により、研究などに時間を回せることを期待する。
- ・ 診療面では利便性が高い。研究や教育は積極性や創造性が必要なので難しい。
- ・ 選択肢の多様性
- ・ 全てではないが、web で十分な要件については、かなり負担が減った。
- ・ 全てにおいてプラスではないが、全体として無駄な時間が減って時間に余裕が出来る
- ・ 総合的に自分の時間は増える
- ・ 多施設共同研究の倫理審査などにおいては ICT によって大幅に作業が軽減され、短時間で必要な処理が完了できるようになりました。一方で自分達で研究を立ち上げる際にかかる時間は変わりません。一定の効果はありますが、限界もあります。
- ・ 地方では移動時間が長く、それを削減できる。
- ・ 中途半端な時期には、かえって面倒な事がある。
- ・ 東京開催の会議がオンラインとなり、出張不要となったため、診療時間が増えた。
- ・ 避けられない方法であり有効に作用してもらわないと困る
- ・ 文面が主体であったことをオンライン対面導入に置き換えていくことで、対面式が増える
- ・ 毎年同じ資料を一から作成する必要がなくなっていくのは助かる
- ・ 無駄な会議が減る。
- ・ 無駄な業務が減ると思うから
- ・ 無駄な出勤が減らせると思う
- ・ 無駄な対面が減った代わりに準備の時間が増えた。
- ・ 無駄は減るが、資料作成に時間がかかるのは同じ
- ・ 無駄を省ける可能性がある。

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・明らかに効率化したとは思いますが、いいことばかりではない。

**あまり感じない

- ・ ICT だと、跡が残るので、完璧な資料作成が必要大変。
- ・ ICT 化が進んでいると感じていません
- ・ ICT 化してないしわからない
- ・ ICT 化にもそれなりの煩雑さがある。
- ・ ICT 化にも良い面と悪い面があるので、あまり効率化に寄与するとは考えられません。
- ・ ICT 化により効率化されていないように感じるから。
- ・ ICT 化を活かせるだけの仕組みがないから。
- ・ ICT 化進んでいないのでわからない。
- ・ PC 作業の増加、インターネット環境が無い(職場は Wi-Fi 禁止、有線 LAN の接続制限で、公的な登録作業もままならないため、自前でインターネット環境作るしかない。)
- ・ オンラインでのコミュニケーションはストレスが多い。
- ・ オンラインの学会や講演会、会議など参加しやすくなるが多くなるとそれに時間をとられる
- ・ そこまでの ICT 推進までは至っていないため。
- ・ その分他の仕事が増えるだけ。
- ・ それ以外の雑務が増えている
- ・ どこまでの ICT 化を勤務先が施行してくれるかが一切不明
- ・ むしろ参加させられる会議が増えて可処分時間は減った
- ・ やることは変わらず
- ・ 以前と比べてそれほど効率化した部分がないように思う。
- ・ 移動時間の短縮には貢献すると思う
- ・ 一長一短
- ・ 影響を感じないから。
- ・ 学会参加に魅力を感じなくなった
- ・ 求められる仕事量は増える一方だから。
- ・ 教育にはまだ不十分な分野が多い。
- ・ 業務効率改善に伴う質の向上が望みにくいため。
- ・ 結局スライドや資料の準備をするのは大変であり変わりがない、むしろ面倒なことが増えてわずらわしいと感じる。
- ・ 結局紙とハンコ文化が続いているため
- ・ 結局準備が大変なので。
- ・ 現場の業務が ICT 化している実感はない。
- ・ 古い考え方ですが、人とのやりとりは画一的にはできないと思いますので、あまり効率的になりすぎるのもどうかと感じます。
- ・ 効率化される部分も増える一方で、業務内容も増えるので時間削減には至らない
- ・ 効率化可能な人と不可能な人、楽ができるようになる人と変わらない人の二極化がすすむと思われる。
- ・ 雑用そのものが減っていない
- ・ 仕事の内容、量、人員が変わらない
- ・ 時間外労働が増えることに配慮が至っていない
- ・ 時間効率の悪い仕事は ICT 化されていない部分だから
- ・ 実感できないから
- ・ 多くの報告や申請がオンライン化することで、かえって当事者にすべての手間がシフトしているだけを感じる。
- ・ 中途半端な ICT 化はかえって業務を増やす印象がある。
- ・ 導入作業で時間を取られる
- ・ 普及していない
- ・ 分野・内容によりますが、かえって入力業務などが増えた部分はある。
- ・ 変化を感じないから
- ・ 便利だから行うことが余計にふえる
- ・ 無駄な会議が変わらないから。
- ・ 明確にメリットはまだ感じられる気がしない

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

**ほとんど感じない

- ・ ICT化に伴い安全管理など付随する業務が増えるので
- ・ うまくいけば減るだろうが、その準備などをどうすればいいかが手探りでうまくいきにくい。
- ・ オンラインでもオフラインでもやる事自体さほど変わらない
- ・ オンライン診療が普及していないから、
- ・ むしろ増えた業務もある。
- ・ やること増えて意味がない
- ・ より一層、責任感の希薄化が進んでいる
- ・ 医師の仕事は学者ではなく職人です。学生や研修医も実際経験しないとわかりません。患者も病院に来たい人が多いので診療も難しいと思います。
- ・ 院内業務がICTにならずどうやって業務効率化に結び付くのか全く意味が分からない
- ・ 何がICT化しているか知らない
- ・ 学会に実質的にほとんど参加できなくなった
- ・ 却って会議や研究会等が増え、拘束時間が長くなりました。
- ・ 効率化されるため、逆に依頼される仕事量が増えた。
- ・ 実際生かされておらずオンラインになった評価作成など逆に手間もある
- ・ 診療の質は落ちるのに、診療に求められる水準は高くなる一方なので。
- ・ 入力業務が増加。職場以外でも入力。

講師・女性

**感じる

- ・ ICTによる情報共有はとても大切。今まで距離ということにつながれなかったところとつながれる。
- ・ オンデマンドなど、移動時間や労働時間を調整することが減った。多少楽です。
- ・ これからの期待している
- ・ システムを体系化できる
- ・ 移動時間が削減されるため。
- ・ 移動時間などが短縮できる
- ・ 移動時間が減少して、その分の時間が他の業務に使える
- ・ 移動時間の節約、人員不足の解消、により、所属機関の業務効率化に寄与する。
- ・ 移動時間をその他の時間に使えるため
- ・ 移動時間を省ける
- ・ 遠方への移動や宿泊がない分、本来の業務に時間を使える
- ・ 可能性がある
- ・ 会議などはわざわざ出向かなくてもよいものが多いので、遠方の人との打ち合わせはWeb会議で気軽にできるのでよい。
- ・ 会議の効率化や数の減少に繋がる。
- ・ 教育:教師が必ずしも毎回学生の居場に出向かなくても講義ができる(教師が自宅での介護・家事に時間を割きながらも直ぐに講義ができる、講師・学生が体調不良で外出できなくても講義を継続できる)、研究:学会発表のオンライン化は現地への往復時間の削減ができる(発表内容のビデオ作成は多大な時間を要するようになってしまったが、聴衆側としては話しが滞り無く聴きやすいだろう。)
- ・ 現地に行かなくていいので、移動の時間が短縮できる
- ・ 現地参加の必要性がなくなり、スキマ時間を有効利用できるようになる
- ・ 効率が格段に上がると考えられるから
- ・ 効率は明らかによい
- ・ 診断書、申請等が楽になった。
- ・ 他院とのカルテ・検査・投薬情報共有を進めてほしい。前医への問い合わせにかかる手間と時間がなくなるとよい。
- ・ 便利になった
- ・ 本来の業務以外に費やさざるを得なかった時間を減らすことができる。
- ・ 無駄な時間が減る。
- ・ 録画を活用することで、同じ内容の講義をする場合、学生に視聴させることで効率的となる。ただし学生がそれを十分に勉強できた場合に限るが。

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

**やや感じる

- ・オンライン会議が増えたことは業務として軽減するので歓迎するが、形骸化が進んでいる可能性も否定できず、教育など face to face の方が良い場合もある
- ・オンライン診療などが進むと、効率的になる部分はあると思う。
- ・カンファレンスをオンラインでやることで関連病院の先生方が参加できたりというメリットはあるが、その分個人差が非常に大きく、総合的に見てどうかは判断が難しい。
- ・きちんと導入できれば、改善すると思うのだが…。移行期は余計な仕事が増えるのが問題
- ・移動時間が減った
- ・移動時間が省ける
- ・家事と並行してできるが増えるため。
- ・学会に行くまでの時間や手間は無くなった。しかし現地で人に会えないのは欠点。
- ・学会参加の負担軽減
- ・慣れるまでが大変だったが、一旦慣れると手作業で行っていた雑務から少し開放されたと感じるため。
- ・教育に関しては、教員も学生も都合に合わせて準備・受講ができるためとても良いと思う。
- ・教育や研究は寄与すると思いますが、診療は科によるのでは、と思います。
- ・業務の効率化が可能になる
- ・効率は良くなる傾向があると感じる
- ・講義のために移動しなくて済むのは時間短縮になる。
- ・在宅でできる業務が増えると助かります
- ・時間の節約ができる。
- ・地方の人が参加しやすくなる
- ・聴く方は効率化につながるが、提供する方は最初は大変な業務では。
- ・便利になる面はある
- ・無駄な時間が減るため

**あまり感じない

- ・ICT 化により効率的になったと認める反面、ICT に慣れるまでに余分な時間がかかり、セキュリティ面への配慮にも時間とストレスがある。
- ・そもそも ICT 化が推進されているか実感しておりません。
- ・移動がないが、参加すること変わらないため。
- ・具体的にわからない
- ・結局医師の負担減につながっているとは思えないから。
- ・自宅からカルテにアクセスできるようになると変わると思う
- ・進んでいない

**ほとんど感じない

- ・ICT 化のための準備に時間を要するため
- ・ほとんどどころか全く感じない
- ・効率化されてきた時間でやるべき仕事はあるため勤務時間の削減にはなっていない
- ・人員不足によるか社会の変化か診療を含め業務量が増加している

講師・回答しない

**感じる

- ・この質問では医療の何を ICT 化と定義しているのかわからないが、学会のオンライン開催のことならば前述の通り。その他であれば、電子書籍やインターネットの活用によって診療の質は向上していると思う。

**やや感じる

- ・移動時間が減るから
- ・内容による

助教・男性

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

**感じる

- ・ ICT で無駄なことが省けるから
- ・ ICT を上手く使うことで効率化を強く希望する。現在の電子カルテの速度が遅すぎて診療が非常に非効率となって本当に困っている。
- ・ ICT 化によって作業時間の短縮や効率アップが出来る
- ・ ICT 化の本質
- ・ IT 化は必要
- ・ web 会議の恩恵はあると思います
- ・ アクセスのしやすさと、移動時間の削減
- ・ アナログな部分が多すぎて、二度手間が多い。
- ・ いつでもどこでも、自分の興味のある分野を気軽に勉強できる体制は非常にありがたい。スーツに着替えて肩ひじはって聴講に行かなくても、リラックスして聴講する事で、よりアイデアも浮かびやすくなると感じている。
- ・ エクセルやワード、パワポなどを使える人があまりに少ないので、それが改善されれば効率化される。
- ・ オンデマンド型の講義になったから
- ・ オンデマンド方式の学会が増えることにより、容易に同じ領域の臨床知見や研究内容に触れることが出来るようになったから。
- ・ オンラインでのやり取りや入力フォームなどの活用が進んで、対面や紙媒体などアナログとの変換作業が省かれる。移動時間や拘束時間が減ったので、時間的な余裕ができる。
- ・ オンラインでの講演・会議が可能となり時間を有効に使えるようになった
- ・ オンライン参加によりフレキシビリティが改善するため
- ・ コミュニケーションの時間短縮がはかれる
- ・ システム化することで、手間な作業が減る
- ・ そもそも不必要な会議は減らすべきと思うが、重要度の低い会議のために「移動して集まる」という作業が不要になったため。
- ・ データ管理等に関してはデジタル化することで管理が楽になる
- ・ デジタル化により、様々な業務の時間短縮化が可能になると思われます。
- ・ どれだけ機械化できるかによって、人の力を使うべきところに集中できる。
- ・ パターン化された業務の効率化には非常にポジティブに働いているから。
- ・ ロスタイムが減って、本当に必要な内容に注力することができる。
- ・ 移動が少なくなった
- ・ 移動しなくても研究会に参加できるため、省エネ
- ・ 移動しなくても良いメリットが大きい
- ・ 移動時間が激減するため
- ・ 移動時間が減る、またはながら作業が出来るから
- ・ 移動時間が減ることで時間ができる。
- ・ 移動時間が減ることなどから明らかに有用
- ・ 移動時間が減ることにより、その時間を準備などに使える。
- ・ 移動時間の削減、作業を並列できる
- ・ 移動時間や移動経費が減る
- ・ 移動時間や会議の時間の拘束が減るため、業務効率化につながると思います
- ・ 医療業界は ICT 後進分野であり今後発展の余地はあると思うため。
- ・ 医療現場の ICT 化を進めてください。紙文化、非効率のはびこっています。
- ・ 遠隔会議がやり易くなった。
- ・ 会議への移動時間の削減、どこからでも会議に参加できるのはメリット
- ・ 外来診療においてもオンライン診療など有用である。
- ・ 学会現地に行く頻度が減り、現地にかかる時間分の余裕が生まれた。
- ・ 楽に情報が入手できるようになった
- ・ 教育に関してはオンラインを利用することで時間や場所を気にすることなく学べるようになったと思う。
- ・ 業務が効率化する可能性があるから。
- ・ 業務の短縮、効率化することができると思われる。
- ・ 現地に行かずに学会発表を行うことが可能となった。
- ・ 現地に行かなくても気軽に参加できるため時間的余裕もできるため。
- ・ 現地へ出張するための移動時間は軽減されるため。

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 効率よく参加できる
- ・ 効率化が進む
- ・ 効率化できる部分は大いにあると思われる。
- ・ 効率的な方法が期待できる。
- ・ 今後 ICT 化が進めば無駄な時間が減るので効率化が進むと思うため
- ・ 作業効率化
- ・ 紙媒体の書類が減ることにより、書類のやりとりがスムーズになるため
- ・ 時間と場所に縛られない効率は代えがたいメリット。PC に一元化された業務は処理が早い。
- ・ 時間を有効活用できる。
- ・ 時間的にも空間的にも効率が上がるから
- ・ 時間的余裕が出来た。連絡や情報共有がしやすくなった。
- ・ 自宅での仕事がしやすくなると思われる。
- ・ 自分で選択して行動し、時間短縮することができる
- ・ 重要度の低い学会や会議にわざわざ行く時間を節約できるようになった。
- ・ 出張が減る
- ・ 手に利用すれば便利
- ・ 場所を選ばず作業が可能となるため。
- ・ 情報の収集、共有などにおいて以前に比べて効率が良くなったため
- ・ 情報を瞬時に共有できる。
- ・ 情報共有が進めば効率化に寄与すると考える。
- ・ 色々便利
- ・ 診療や教育の効率化につながることを期待される
- ・ 進歩した
- ・ 大変な効率化が期待できる。
- ・ 地方都市での勤務者にはとにかく遠方の会議に行かなくて済むのは何かと楽。情報も得られやすい。
- ・ 調べ物が格段に速くなった
- ・ 長距離移動が減った
- ・ 通勤時間が削減できる
- ・ 日常診療では、事務仕事の減少。ただし、現状では逆に手間が増えているものもある。手書きの方が早いことも多い。教育では、オンライン講義を行うことで教室へ必ずしも行かなくて良くなり時間の節約になる。研究においては、データ入力や統計処理の効率化に寄与すると考える。ただし、ICT 化を決めている人間に知識や向上心がないと、中途半端な ICT 化が行われるため、効率が逆に落ちる。使いにくいものが導入される。分からないため ICT 化を求めても導入してもらえない。
- ・ 病院外でもカルテなど見られれば、業務効率化に寄与すると思います。
- ・ 不要な出勤が減り、休むことへの抵抗が減る
- ・ 不要な出勤が必要なくなるため
- ・ 便利だから
- ・ 便利は確実に向上した
- ・ 本気で使用すれば、モデル講義を利用することで講義の必要がなくなる。研究も他組織との連携やノウハウの共有が容易になる。診療は現状で推進が最も進んでいる。
- ・ 密回避もあるが効率化も目的だから
- ・ 無駄が省けるため。
- ・ 無駄な会議に足を運ばなくて良くなった
- ・ 無駄な事務作業が減る
- ・ 無駄な時間が減ると思います。
- ・ 無駄な書類作業が減れば寄与する。
- ・ 無駄に集まるだけの会議が減らされて良い。聞くだけのカンファレンスはつまらない飲み会と一緒に、経営の無能さを晒しているだけ。業務チャットだと発言の機会は残るし、はっきり伝わる。
- ・ 様々な業務形態で効率的になるため、メリットは大きいと感じる。

**やや感じる

- ・ 「教育」「研究」「診療」のトータルとしては効率化されると思う。

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ ICT で行う事には限界があるので
- ・ ICT のメリットと思う
- ・ ICT をうまく使いこなせば業務は効率化できると思う。
- ・ ICT 化が進むと電子カルテ業務などの勤務時間の削減が期待できるが、本業である手術麻酔業務は手術時間が長いままなので変わらないと思う。
- ・ ICT 化により、移動などの時間が減り効率化には寄与すると考える
- ・ ICT 化に対応できない高齢者がネックとなり効率化まで到達しない
- ・ いらぬ会議、学会などで出張する必要がなくなるから。
- ・ うまく使うことで時間効率は上がると思う
- ・ うまく使えば効率化に寄与すると考えます。
- ・ オンデマンドでスケジュールの拡張性改善が期待できるため。
- ・ オンラインで聞きながら仕事も出来ると思う。
- ・ オンライン会議がスムーズに行えている。
- ・ オンライン活用で効率化できる。
- ・ クラウドによるペーパーレスは歓迎
- ・ システム化できるから
- ・ しっかりと投資して基盤を整えることができれば良くなると思う。
- ・ スキマ時間を利用できる可能性があるため、ある程度は寄与するかもしれない。
- ・ スケジュールの管理や配布といった観点では、業務の効率化が図れる。
研究については、ICT 化により遠方の学会に参加しやすい、勉強会の配信がやりやすいという側面があるが、直接会話することで得られるものも多く、メリット・デメリットが存在する。診療においては、直接患者さんと相対することが重要であるため、ICT 化のメリットは現状感じられない。
- ・ そのように思うが実感は今のところなし。
- ・ その場所に行かなくて良いのは時短になるから。
- ・ どの部分が効率化につながるかがよくわからない
- ・ バランスが変化する
- ・ まだ今のところ準備は自分でしなければならぬので、やや煩雑。
- ・ まだ分からない
- ・ ムダな会議をなくす、オンライン化が進んでいる印象。
- ・ よくも悪くもアクセスしやすい
- ・ より効率化を求めることができると考える。
- ・ より時間と場所を選ばずに必要な相談ができるようになった。
- ・ より単純化できていると思う
- ・ リモートの併用によって
- ・ わざわざオンサイトで業務を行わずに出来れば、効率化できる
- ・ 移動が少なくなるのは良い。
- ・ 移動する時間ロスが各段に減ったから。
- ・ 移動せずに会議や学会に参加することができるため時間の節約になる
- ・ 移動などの不要な時間は解消されるともむ。
- ・ 移動時間がなくなる分、効率化は進むと思う。一方、WEB 会議になったことで参加できない理由が少なくなったため拘束時間も増えた。
- ・ 移動時間が節約されるため、代診をお願いする必要が少なくなった。
- ・ 移動時間などが削減できるため勤務時間としては削減されると考えるが、効率的かどうかは不明。
- ・ 移動時間などの制約がなく、便利
- ・ 移動時間の短縮などで、ある程度効率化できると思う。
- ・ 移動時間の短縮は多少の効果はあると思います
- ・ 医局員や学生等との連絡・通知が容易になったと考えるため。
- ・ 一方的に聴講する学習の機会は増えたが、討論には向かないため、効率化への寄与は部分的だと思われるから。
- ・ 遠隔で作業がかわのうになるため
- ・ 遠方の先生の講義や講演などに参加しやすくなり、また講師や演者も移動時間が減ることで、双方にメリットが生まれるため。
- ・ 遠方移動の頻度が減ったので

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 科研費のシステムや research map により効率化できていると思う反面、診療においては未だにオンライン署名やタスクシェアリングが進んでいないばかりか、ICT 化によって入力事項や業務内容が増えて非効率化していると感じるため。
- ・ 会議のオンライン化による効率上昇
- ・ 会議や学会に参加するための移動時間が削減されたため。
- ・ 会議や教育など、オンラインのみで完結する業務についてはかなり効率化に寄与していると考ええる。
- ・ 会議等のオンライン化で業務効率化した部分も多少ある
- ・ 外科領域ではあまり変化はなさそうと考える
- ・ 外勤や出張先でも教育が可能になる。
- ・ 学会参加のための移動時間がなくなった
- ・ 学会参加はしやすくなったため、研究の面ではメリットが大きいと感じている。
- ・ 楽だから
- ・ 活用のいかんによりけりだと思う。
- ・ 慣れなければむしろ非効率(資料の作成に時間がかかるなど)だが、慣れればウェブ会議など効率良くなっている
- ・ 期待はするが、現時点では具体的なメリットが享受できていない
- ・ 期待感がある
- ・ 記述業務が減るため
- ・ 教育、研究においては寄与すると考える
- ・ 教育で他大学の教材を利用したり、学会で利用できるストックを作る方向で動いているから。
- ・ 教育において効果を感じる
- ・ 教育を受ける側は良くなっている。教育する側、研究する側は良くならない。
- ・ 教育面での恩恵を感じる 研究・診療は限定的
- ・ 業務の効率化が図られることを期待している。
- ・ 業務は効率化しますが、逆に拘束される可能性もあります。
- ・ 業務効率化は進んでいるが、現在も対面出席必須の会議が多く、本質は変わっていない
- ・ 勤務時間の削減になるが、一律に業務が効率化しているかは多角的な評価が必要と思う
- ・ 勤務時間削減や業務効率化はある。一方で、診療における安全性の低下とのトレードオフとなっているようにも感じる。
- ・ 勤務場所の制限が少なくなった。資料の電子化で、データ管理の質が向上した。
- ・ 研究においては ICT 化の寄与はあると思う。診療や教育はまだ途上にあると思う。
- ・ 研究や教育は行きやすくなっていくと思うが、診療については電子カルテの性能や診療体制にかなり依存するところがあるので、そのあたりもうまく ICT 化・効率化を進めないといけないと思う。
- ・ 現場へ赴く時間削減
- ・ 現地に行かずに学会参加出来て、診療時間を削る必要が少なくなったから
- ・ 現地に行くための時間が省かれオンライン環境があればどこでも参加出来たり、アーカイブを後から見られたりすることはメリットである。
- ・ 現地集合が必ずしも必要のない会議などは、オンライン開催により効率的に参加できるようになった
- ・ 効率 up する一方で、プライベートが侵食される
- ・ 効率が上がる面はあるが、手続きが煩雑で余計な手間がかかる部分がある。秘書などを自由に使える環境であれば変わるかもしれない。
- ・ 効率が良くなれば
- ・ 効率は実際によくなっていると思う
- ・ 効率化が期待できる
- ・ 効率化が進むと思われるから
- ・ 効率化といえば間違いのないと思うのですが、果たして効率化だけでいいのか?とも思ってしまう。
- ・ 効率化には寄与する可能性はある。
- ・ 効率化に寄与すると感じるがその他の業務に費やす時間の方が多から
- ・ 効率化のために導入しているから
- ・ 効率的になったことは確か
- ・ 最初の導入には時間がとられるが、似たようなことで何度も使いまわせるときには効率化される。
- ・ 雑務の量は少し減った実感がある。
- ・ 事務的な打ち合わせを行う際に現地に行く必要がなくなったという点が大きい。ただ研究活動については、やはり対面のほうが質が高いと感じる。

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 時間に限りが出てきたため。
- ・ 時間外に行いやすい。
- ・ 時間確保ができるため。
- ・ 時間節約ができる
- ・ 時間利用の効率化となる
- ・ 実質労働時間が減ることで質が下がる可能性はある
- ・ 手書きの書類がもっと減ればよいと思う。
- ・ 出張しなくて済む分、時間にやや余裕が出来た
- ・ 書類業務の効率化ができれば、ある程度の業務時間を減らせると思う。
- ・ 上司からとやかく言われても怖くない。
- ・ 情報の効率的な集約・運用がより円滑に行えるようになると期待できるから。
- ・ 情報共有できるから。
- ・ 診察時間の短縮に繋がれば。
- ・ 診療においてはオンラインが進むと思う。教育にはコミュニケーションの面からやや不向き。
- ・ 人の無駄な作業が減るため
- ・ 制度が整うまでは時間がかかると思うが、軌道に乗れば業務量は減ると期待したい。
- ・ 大学病院においてはそもそも非効率的な部分が非常に多く、ICT 化で多少仕事が楽になっても、その分の違う仕事が入ってくるだけだと思う。
- ・ 地方にいたので、移動時間がいらなくなること、より多くの情報に触れられること。
- ・ 適切に活用すれば、無駄は減ると思います。
- ・ 適切に行われれば効率化に寄与するはずだが、実際には予算や担当者の対応力で大きく制限されている。
- ・ 田舎にいたため無駄な移動は減った
- ・ 電子カルテの内容を病院外で閲覧可能になったりすることで、オンラインカンファレンスがより簡単に開けるようになるなど、目的を絞れば遠方とのカンファレンスなどコミュニケーションは現在よりも手軽になると思われるため
- ・ 電子カルテは、開発会社にもよるが便利な部分は多い。
- ・ 電話診療や Web 講演会により、移動時間などが削減できる。
- ・ 入れるシステムに依存すると思う。きちんと専門家を入れるべき。大学病院の IT 部門は事務方だけが担おうとすると弱くなる印象。
- ・ 便利だが煩雑さがある気がする。
- ・ 北海道が都市間の距離が長いので、オンラインで済む診療が増えれば、移動時間が短縮され、負担が軽減されます。
- ・ 無意味な時間の短縮
- ・ 無駄な移動や準備が減った
- ・ 無駄な移動時間が抑制される為
- ・ 無駄な移動時間や現地参加に費やす時間を削減できるため、浮いた時間で他の業務ができる可能性がある。
- ・ 無駄に忙しい、という現状が多くの人にとって改善するのではないかと思われる
- ・ 労働が合理化される一方で、その分タスクは増えるため、仕事の負荷そのものはあまり軽減していない。

**あまり感じない

- ・ 医療者が慣れたとしても、患者が新しい技術になれるのに、10年はかかる。触診ができなかったり、視診に制限がかかったり、診療の質は下がると思われる。オンラインだと、ちょっとした雑談レベルの話をしにくくなり、結果的に業務効率が悪化する部分も出てくると思われる。また精神的なフォローやつながりも減って、教育などにはより悪影響があると思われる。
- ・ Face to face の価値が、減らない
- ・ ICT がよくわからない。
- ・ ICT ソフトが不十分あるいは確認作業により必ずしも効率が上がってないから
- ・ ICT により移動にかかる時間は減ったが、その分別の業務がどんどんはいるので、勤務時間は結局変わらない。
- ・ ICT の活用法が思いつかない。
- ・ ICT を過剰に強化しなければという前提で。
- ・ ICT を活用できない方が一緒に仕事に参加している場合には、全く効率化が進まない
- ・ ICT を上手く使いこなすノウハウを独自で学ばなくてはならないから。
- ・ ICT 化するために時間が必要であるから
- ・ ICT 化とは？具体的に何をさしているのでしょうか。

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ ICT 化の意味が分かりません
- ・ ICT 化への対応自体に要する時間が必要だから
- ・ あまり進んでない
- ・ かえってシステムが複雑になり周辺の部分で時間を取られる。
- ・ かかる時間は変わらないので。
- ・ カルテなど診療端末を院内でしか扱えないため。
- ・ これまでに導入された ICT の UI がまったく利便性を考慮されていないため
- ・ そもそもまともに推進できるとは思えない
- ・ それに対応したものを作る必要がある。
- ・ どんな社会になろうと結局働かないといけなは変わらないと思います。加えて技術の進歩によって余暇ができればその余暇を埋めるように仕事を増やす又はさせる気質が日本社会の根底にあると思います。
- ・ やることが増えるため
- ・ やることが変わっただけで量は変わらない
- ・ 移行、フィットさせるための努力や時間が大変。特に、今中堅にあたる世代は、様々な移行に常にフィットを求められてきた世代で、またその世代に重荷になる。教授等々上の立場の人や、研修医レベルが対応するなら良いと思う。
- ・ 移動の手間は省けるが、会議・web 学会の数が多すぎる。
- ・ 移動時間は減るが、効率はやや悪くなった気がする
- ・ 改善の方向に進むとは思わない
- ・ 確認のための確認に必要なことが多く、結局は ICT 化に対するリスク管理に時間が取られる。
- ・ 学会参加はしやすくなった位。
- ・ 業務形態が現地で行うのみから Web 併用で行えるようになった点で利便性は上がったが、業務自体は減っていないため
- ・ 業務量が減るとは、到底思えない。
- ・ 勤務時間は変わらないし、効率化は進むようでそこまで進んでないので、質が下がると思う
- ・ 具体的なイメージがわからない。
- ・ 具体的に、どう変わっていくかはまだまだ不明。期待はしている
- ・ 結局求められることが増えすぎて、簡便になっても、勤務時間は長いままである。
- ・ 元々の業務量が多く、今まで不十分であった業務を実施することとなり、削減とはならない。
- ・ 現時点ではあまり具体策が思い当たらない
- ・ 現時点では有効活用できているという実感が無い。臨床の合間に病棟などで PC 機器などの操作を行うことはむしろ煩雑な印象である。
- ・ 現実味がないため分かりません。
- ・ 現場の目線を取り入れていない ICT 化のため
- ・ 現状では教育と研究に大きな変化がないため。
- ・ 現状の「ICT 化」は勤務時間削減や業務効率化のために行われているように感じないから。
- ・ 現状恩恵をあまり感じないため
- ・ 雇用側が ICT を使いこなせない、予算不足から導入せず、かえって労働者の負担や業務が増えているため
- ・ 効率が上がっても若手の仕事が回ってくるため大きく変わらない
- ・ 効率化しても結局他の余計な仕事が増えている
- ・ 効率化には寄与するが時間が減るわけではない
- ・ 効率化はある程度可能、勤務時間の削減に影響はない
- ・ 行く時間が削減できるのは有り難いが、その効果はわずかな印象です。
- ・ 今のところ実感が無いから
- ・ 裁量労働性であり、時間外業務は変わらないどころか増える一方である。
- ・ 事務型の問題であり、医療現場における実感は無
- ・ 時間外に設定されやすい。
- ・ 実際には効率化が進んでいるのだろうが、事務的な業務量が増えており、現状では業務量増加が効率化を上回っているため。
- ・ 実際に行われる研究が勤務時間とされずに処理されるため
- ・ 準備等の手間を考えるとあまり変わらないと思う。
- ・ 書類作業が増えて効率が下がった可能性がある。
- ・ 上手く運用できず、結局は業務量が増える
- ・ 情報伝達は早くなるが、それを準備するために余計に時間がかかる。

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 新たな仕事が増えている。
- ・ 身近に ICT 化を強く認識することがないから
- ・ 精神科は意外と ICT と相性が悪いと思うから
- ・ 精神科は直接的なやりとりが重要なため、いずれの分野でも会議は効率的であるが、それ以外は、非効率。
- ・ 全然 ICT 化が進んでない職場。
- ・ 早く迅速に情報を伝えることができる反面、結果的に対面による処理を要する業務内容が多い。
- ・ 他にも仕事が多いから
- ・ 大幅な時間短縮にはならない
- ・ 平時で実感がない
- ・ 変化を感じない
- ・ 無駄に定型や格式ばった記入や記述を求められることが増えた
- ・ 命を預かる仕事だから ICT に限界があると思うから
- ・ 余計なパソコン業務がかえって増えるため
- ・ 利用できるツールが少なく、自分で作り出す必要性があるから。
- ・ 良い面ばかりではないし、悪い面ばかりでもないです。
- ・ 良い面もあるが悪い面もある。(特に、学生教育において、患者と接する機会が減る)
- ・ 労働力が少なすぎる。

**ほとんど感じない

- ・ 「感じる」との回答ではあるが、過渡期の現在では業務が増えている。また、永続的に ICT 化可能な目途がどの分野でも立っていないので、おそらく業務は増え続けると予想します。
- ・ 「診療」においては、いまだに電話予約で医療者が手入力で予約取得や変更に対応している。感染対策を含めたペットコントロールも医療者が行なっている。自動化、AI 化が求められる。
- ・ 「管理」においては、医師の当直表、看護師の勤務シフトの作成を管理職が時間を割いている。自動化、AI 化が求められる。
- ・ 1 結局、直筆サインが必要
- ・ 2 雑多な PDF が増えただけ
- ・ ICT という略語を知らない
- ・ ICT を入れることで業務が煩雑になる
- ・ ICT 化が進んでいない。全国共通データベースの構築を。
- ・ ICT 化によって新たな手間が増えているため。
- ・ ICT 化の意味がわかりません
- ・ ICT 化を実感していない
- ・ ICT 化推進の実感がない。
- ・ IT 操作に新たな業務が生じる。IT 化に合わせて業務内容の修正、不要な業務の削減を進めなければ効率化は起こらない。
- ・ システム全体が変わっていないから
- ・ デバイスの不具合含め時間が余計にかかる
- ・ どういう形で寄与するのか想像できません。
- ・ どこでも仕事をするようになるため
- ・ ヒトの脳は IT に適合しないから
- ・ まだわからない
- ・ まどろっこしいネット作業も増えて、結果時間がとられる
- ・ むしろ対応しないといけないことが増えた
- ・ めんどくさいことはなくなる
- ・ やる人に業務が集中することに変わりがないから
- ・ 一部のみ適用で、そのしわ寄せが他に出てくる。
- ・ 院外でも読影業務が可能であるように整備されると勤務時間外での問い合わせが増える事が予想される
- ・ 教育、研究では整備される事により求められる仕事の内容がより細くなり実質の手間は増えると思われる
- ・ 何も変わっていないから
- ・ 関係は特に関係ないと思う
- ・ 研究や教育に対して対価が払われない。
- ・ 逆に ICT 化がらみの別の仕事が増えている

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 教育、研究については、参加する学術集会が増えたが、その分、家庭の時間を削っている。診療については、電子カルテが病院によって異なり、加算のための入力や操作が増えて今のところは負担が増える一方である。
- ・ 業務が効率化するとは思えない。根本的に人員不足のところは一生人員不足
- ・ 具体的になにがどうなるかが分からないので、如何様にも感じようがない
- ・ 結局 PC での作業を強いられるため
- ・ 結局のところ、仕事量は変化しないから
- ・ 結局家で会議を受けたりすることになるため
- ・ 現状無駄に準備などの時間がかかる。
- ・ 効率化されることで、仕事量が増えた。
- ・ 今、変化を感じない
- ・ 仕事の量は変わらないため、今まで以上に過酷になっている
- ・ 仕事量が減らないから
- ・ 自分が医師となってからは、それほど ICT 化が進んだとは感じないため。
- ・ 実質の業務に ICT 化が進んでいない
- ・ 手間が変わっていない
- ・ 準備に時間かかるようになる
- ・ 情報漏洩などデメリットが多い。
- ・ 台湾や北欧並みに導入できれば改善できるが、現在の病院の予算では無理。そもそも IT スキルが低い医師が多い。

助教・女性

**感じる

- ・ ICT 化推進に賛成だが、今の職場は ICT 化の恩恵は受けていない。
- ・ Web 上の問診表がそのままカルテ情報となり、事務・医師ともに入力する手間が省け、患者の待ち時間も減少した。
- ・ アナログ作業が少なくなる
- ・ オンラインでのミーティングや学会が可能であれば、移動時間が削減できるため効率化につながる
- ・ これまでの学会参加のための移動時間・金銭面の負担が改善されるから。
- ・ これまでの雑務が減る
- ・ シラバスがオンライン
- ・ そうなって欲しいが、あまり活用されていない気がする。
- ・ ただ使いこなせないと煩雑化して逆効果になる。
- ・ リモートでできる業務や患者からの病歴聴取など活用方法があると思う。他病院との連携での活用など、意識改革および職員の比較をデータ化しやすいのではないかな。
- ・ 移動などの時間、労力の削減が可能となる。
- ・ 移動の時間を短縮でき、効率的に業務を行うことができる。
- ・ 移動時間が減り肉体的な負担が減るから
- ・ 移動時間が減る、拘束される時間帯が自分で決められるのは良い。
- ・ 移動時間が不要となり、他の業務に充てることができるため。
- ・ 印鑑業務のオンラインやりとりや、図書館の電子辞書の拡充、オンライン調査などがもっと拡充してくれれば、効率化が進むと感じる。
- ・ 介護育児中の職員も参加しやすい
- ・ 開催場所を問わないため、移動時間削減につながる
- ・ 業務のアウトソーシングにつながる
- ・ 勤務時間は減らないだろうが、作業時間は短縮されます。
- ・ 効率化はできるように思います。
- ・ 仕事の取舍選択をしたうえでの ICT 化が必要と考える。
- ・ 時と場所を選ばずに同じ情報を共有できるから
- ・ 時間が節約できるため。
- ・ 時間を効率的に使える
- ・ 時間内に仕事を終わらせるよう努めるから
- ・ 自宅からでも自己研鑽や情報収集ができるため。
- ・ 自宅からの会議等参加は無駄に職場に拘束される時間を減らすことができる

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 自宅から参加できるため
- ・ 手間暇部分の短縮可能となるだろうから
- ・ 手作業のための無駄な時間が減少するため
- ・ 書類の作成が楽になった。情報を共有しやすくなった。
- ・ 情報共有しやすくなる。病院以外でも作業ができる。
- ・ 診療の合間に参加可能なため
- ・ 全ての作業の効率化。
- ・ 対面でなくてもできることは非対面で実施できることで移動の手間が省ける
- ・ 対面で受ける意味が、見つからない。
- ・ 田舎に住んでいるのでオンラインは便利
- ・ 物理的距離を克服し時間短縮になっている、しかし質の低下の可能性はあり得る
- ・ 無駄な時間を減らせる。

**やや感じる

- ・ ICTに慣れている人と慣れていない人の差が顕著にならないような工夫ができれば寄与すると思う
- ・ ICTの使用方法にもよるが、うまく活用すれば寄与すると思う
- ・ ICT化を用いることで時間の削減と効率化の上昇が見られるため。
- ・ ICT導入のところで、いったん手間がかかるとは思います、それを乗り越えられるかわかりません。すでに余力がないです。
- ・ アナログよりは短時間で済む。
- ・ いずれはそうなると思うが現状はまだ途上である印象です。
- ・ オンオフの切り替えが時間単位でできるため。
- ・ オンラインの利用により移動時間が減るため
- ・ オンライン診療などでできれば、待ち時間や遠方の方の移動時間などが削減されて喜ばれると思う。
- ・ カンファレンスのために残業しなくてよくなる
- ・ システムを作るのに時間がかかるから
- ・ だらだらした会議がなくなり時間の節約につながる
- ・ どこでも業務に取り掛かれる
- ・ フレキシブルな調整が可能であること
- ・ まだ使いこなしていない実情
- ・ もっと色々できそうだが、まだまだ整備されていない
- ・ モニターからのデータ取り込み
- ・ リモートワークは通勤時間等の短縮につながるから
- ・ 移動、時間の削減により他業務の効率化につながる。
- ・ 移動・休診などの調整が不要となり、移動のための費用の削減などができます。一方で、有効な教育になっているか、診療においては見落としたり、診断・治療介入の遅延がないかなどといった課題は生じると思います。
- ・ 移動しなくても参加しやすいから
- ・ 移動せずにできることが増えた
- ・ 移動や宿泊に時間をかける必要は無くなった
- ・ 移動時間が減った、ファイル共有でどこにいても作業ができる
- ・ 移動時間が減る分、少しは業務が効率化と思われるため。
- ・ 移動時間が不要
- ・ 移動時間の短縮、学会に動員される人数や拘束時間が減ることで居残り組の診療負担が軽減
- ・ 移動時間の短縮が期待できる
- ・ 移動時間の短縮にはなるが、対面でしか得られないものは沢山あるため、一概には言えない。
- ・ 一つ一つの作業に要する時間は短縮できるから
- ・ 何度も同じ講義をする必要がないので、効率的
- ・ 学生のレポート添削を自宅で可能になりました。
- ・ 学内サイト以外からもダウンロードなどができるとより効率が良くなる。
- ・ 感染などのリスク低減がありそうです
- ・ 希望的観測もある。
- ・ 教育においては有用だと思われるが、診療においては変化を感じない。

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 教育は負担を感じるが、研究や診療においては効率化されていると思う
- ・ 業務がシステム化されることにより、作業効率化が期待できるため。
- ・ 業務の効率化が図れると思うが、年配の先生が付いていけない部分がある。
- ・ 業務の効率化を図ることができるものもあると感じるため。
- ・ 業務の生産性は上がると思う
- ・ 業務軽減する
- ・ 業務効率化に寄与すると思います。
- ・ 勤務先を不在にする必要がないから
- ・ 空き時間に e-learning を受講したりできるため。
- ・ 現地に行かなくても知識を得ることができる
- ・ 交通アクセスの良くない県なので、県外への移動時間を省けるオンラインでの会議や学会聴講は時間とお金の節約になる。
- ・ 効率がよくなる場面が増えるだろうから
- ・ 効率化することでより時間の有効利用ができと思う。
- ・ 効率化としては ICT 化は良い影響があると思うが、その分、診療・教育・研究の内容(質)が下がったら残念だと思う。
- ・ 効率化の可能性はある
- ・ 効率的になる部分はある
- ・ 拘束時間が減少した
- ・ 講義等は自分の都合がよいときに収録や視聴ができてよい(隙間時間の有効利用が可能)
- ・ 雑務が減ることで診療の質を上げることができる
- ・ 使いこなすことができれば効率も上がり良いと思うが、全ての人が使いこなせるかは疑問(高齢医師などが適応できるのか、またその層の反対による ICT 化の妨げ)
- ・ 指示出しなどが画一されてできるため
- ・ 紙媒体の作業が減ることで効率化が期待できる。
- ・ 事務作業の分業化
- ・ 自分で時間をコントロールできる範囲が増える。いままでは医療安全講習会など勤務後の 18 時から講堂で拝聴していたが、隙間時間に Web 講習できることは非常に良い。
- ・ 手書きよりかは優れた電子カルテの方が効率が良いから。
- ・ 出勤の必要がない時は、移動時間を減らせる。
- ・ 書類作成や予約取得のやり取りなどが業務からなくなるとかなり効率は上がると思う
- ・ 情報を共有しやすい。
- ・ 診療に関しては時間が増えたが、研究に関しては大きなデメリットとなった。教育に関しては変化はない。
- ・ 推進が効率悪い方向に動かなければ
- ・ 昔より楽な気がする
- ・ 電子カルテなどはやはり便利である
- ・ 特に診療では、カルテ記載や入力の手間について ICT 化でかなり労力を削減できと思う。
- ・ 保険の書類などは勤務時間の削減につながる。手術はかわらないと思う。
- ・ 毎週教授が自分の自慢をしているだけの医局会など無駄な会議はとりあえず参加するふりをして聞き流すことができるようになっただけありがたい。
- ・ 様々なことがスムーズに進むと思うから
- ・ 様々な機会に移動時間を削減しながらアクセスできる面はメリットになるが、実際に接触したり体験できない面はデメリットであると思います。
- ・ 連絡手段が増える
- ・ 録画したものを視聴する形での教育、オリエンテーションなど、効率的と感じる。

**あまり感じない

- ・ ICT 化をサポートする職員がいない。ICT に詳しくない個々の職員が、わからないまま業務を進めなければいけないためかえって非効率が生まれている現状
- ・ イメージがわからない
- ・ カルテシステムが非常に旧来型でボトルネックになっているから
- ・ コミュニケーションがとりづらい
- ・それほど ICT 化されていないので実感がない。

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・まだ有効活用できていないと思うから
- ・やることは変わらないし、移動時間が減った分、別の拘束も増えた気がします。
- ・一人常勤ではあまり効率的に仕事が進まないと感じます。リスクの点からも再考すべきではないと感じる。
- ・外注できなければ、業務の総量は減らない
- ・学会以外は特に変化ない
- ・学会期間の休暇を得られないことから学会参加の機会は逆に減ったため
- ・業務効率化には寄与すると思います。
- ・具体的に何がかわるかわからないため
- ・今のところ実感がないのでわからない
- ・自分で他の業務と学会参加の都合をコントロールしないといけないから
- ・自分の時間の使いたかがかわっただけ
- ・実感がない
- ・実用的とは思えない評価項目が増えたり、手間も増えている。
- ・出席の集計等を学務にお願いできる
- ・処置の多い科だから、実際に診ている数はなんらかわりのない。
- ・前後の準備などは変わらないため。
- ・入力作業が増えた
- ・余計な手間が増えた
- ・利用方法が煩雑

**ほとんど感じない

- ・ICT 化のシステムをうまく利用しないと意味がない
- ・その分、以前に比べて書類が多くなったりしている。
- ・医療事務の職場創成には貢献しているだろうが医師の入力確認の業務が増えた。
- ・会議等が増えただけ
- ・時間を費やすのは患者への説明や話をきくことで、それは ICT 化できない。
- ・実際 ICT 化が進んでおらず、非番の日に会議に参加するために出勤している
- ・早くなった分だけどんどん仕事が増える

助教・回答しない

**感じる

- ・出張がなくなり、オンデマンド配信で都合よい時間に視聴できるため
- ・全く同感です
- ・無駄な出張がなくなる

**やや感じる

- ・寄与させてほしい

**あまり感じない

- ・ICT 化と言われても、何ができるかわからない。
- ・パソコンが得意不得意あるでしょうから

**ほとんど感じない

- ・個人的にオンラインをほぼ使用しないため

医員・男性

**感じる

- ・ICT が確認の業務を担ってくれるなら単純にそれに割いていた常務時間が減るから。
- ・カンファレンスなど、自宅で参加することも可能なため
- ・しがらみはなくなった。オンライン化でフットワークは軽くなった
- ・特に診療においては時間短縮できそう

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ハンコ文化を医療現場からなくせばもっと業務が効率化すると思うため
- ・わざわざ現地に行く必要がなくなった
- ・移動が減ることが最大の要因
- ・移動時間などが大幅に削減出来るから
- ・移動時間の短縮による時間の節約、情報を得やすくなる
- ・移動時間は削減されるのでいいと思います。ただ、距離を感じるので、人と人とのつながりは薄くなる印象です。
- ・一つ一つの業務にかかる時間が節約できるため
- ・会議のための無駄な移動などが大幅に削減できるため。
- ・感染リスクを減らすことができた上に、移動時間を短縮するなど効率よく業務を行えることで本来の業務の時間を増やすことができた。
- ・効率はよくなる
- ・効率化されるから。
- ・行き来の時間が不要になった、リアルタイムでなくても聴講できるようになった
- ・雑務が減ること
- ・時間がかかる業務が減らせ、やるべきことに集中はしやすくなる
- ・時間的余裕が生まれる
- ・人に会わなくていいのは心情的にも楽
- ・全員が集合する機会が減少したため、移動時間などが短縮され、効率的に業務が行えるようになった。
- ・全体的に、情報の収集はしやすくなったと思われる
- ・待機中にも学会参加など自己研鑽ができ無駄が少ない。
- ・電子カルテにより医療文書の作成編集はとて楽になった。また学生への指導もしやすい。
- ・非効率な紙運用が減るから。
- ・分業が進み、仕事の一部を任せられるか、
- ・無駄な時間はなるべく簡単にすませるシステムは必要で ICT がそれに寄与する
- ・様々な場面で自動化が可能であると考えられるため。

**やや感じる

- ・web 使用が増えたため
- ・ICT 化により、在宅業務なども進むため
- ・ICT 化により外部講師から遠隔から講義を受けることができるようになり、常勤の負担が減らせると思います。
- ・ICT 化により効率が良くなると思うから。
- ・オプションが増えるため
- ・オンラインで時間短縮につながる
- ・オンライン化による学会参加への移動時間や経費負担が軽減されている。
- ・移動する時間を省けるから。
- ・移動時間が短縮されるため
- ・移動時間の減少
- ・移動時間の短縮や日程の調整が容易になるというメリットの半面、日々進歩する ICT の知識を得ていく必要があり、また、運用も頻繁に変わるため、読まなくてはいけぬ書類や受けなくてはいけぬ講義は増える。
- ・遠隔で移動時間が減り、電子で郵送の手間が減り、コピペで書く手間が減るなど、上手く使えば寄与する。しかし最終的には運用する側次第。
- ・会議などに参加しやすくなったなど。
- ・概ね業務効率につながると思うが、やたら時間遅くまで web カンファ等を実施しているような場合も見受けられ、結局長時間拘束されるリスクもある。
- ・学会で学んだことで診療の質は上がると思う
- ・学会参加はしやすくなると思います。
- ・基本的には便利なものだから
- ・規制が多い
- ・教育は効率を感じる
- ・教育は難しいかと存じます。
- ・教育方面は完全な ICT 化はあまり好ましくないと思う。

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・業務効率化に寄与して欲しい。
- ・勤務時間は変わらない。ただし、web 参加は主に自宅での参加等になるため、プライベートとの差別化が現地参加よりも難しくなった。
- ・結果的に移動時間が大きく減少するのは良いことだと思う
- ・現在はあまり感じないも、今後洗練される可能性に期待しているため
- ・効率よく予定の構築ができる。
- ・効率化できる業務と、そうでない業務があるが、全体の業務のうちの一定部分は効率化できるところがあるから。
- ・雑務を省略できるため。
- ・事務仕事が自動入力等で軽減されれば、勤務時間削減、業務効率化に寄与と思われる。
- ・時間を有益に使える
- ・時間短縮の期待から。
- ・書類作成の時間短縮
- ・書類仕事が減る その代わり小さな画面に全ての情報が集約し階層化されるため複雑化しすぎるかも 初心者には扱いづらいシステムになると思う
- ・書類仕事の効率は上がった
- ・上述のようなメリットがあるため感じる。ただし、今まで現地参加している間免除されていた業務があったが、現在は業務(日中診療や当直など)をした上でさらに時間外に学会の動画などを見ることになるため、拘束されている時間としてはむしろ増えている。
- ・地方在住なので、移動時間が無くなった分は楽になる。
- ・適切に ICT 化が進めば業務効率化に寄与すると感じる。しかし上層部の思考回路がアナログなので無駄な書類が増えたり、「掛け声だけで全く進まない」可能性もある。
- ・非効率な部分が少なくなることで時間が捻出しやすくなるから。
- ・便利になった

**あまり感じない

- ・ICT ってなんですか
- ・ICT を効率よく使える人間がまだまだ少ない。
- ・ICT 化が間違っており仕事が増えることがある 必要のない講義を全員一律に義務化される
- ・ICT 化で仕事効率は著名に改善したが、それに伴い書類作成などの仕事量が大幅に増えた。
- ・ICT 化で不正な時間外労働の申告などは減らせると思うが、それだけで時間外労働を減らせる訳ではないから。
- ・ICT 化によりある程度の業務の減少は期待できるが、操作など覚えなければならないことは増え、ICT 化するための時間確保や備えるための器機購入などの費用などは、施設間、個人での格差があり、一部の方のみが恩恵を受け、そこに目標が置かれると、予備力のない方は逆に業務が増えるように思います。
- ・あまり経験がないから。
- ・まだ慣れていないです
- ・やらなければならないことは減らないから
- ・移動の時間は削減される可能性はあるが、勤務時間の削減にはつながらないものと思われる
- ・医療の現場ではあまり関係ないのかと…
- ・逆に参加するものが増えるのではないかと懸念している
- ・教育に関してはデメリットの方が多い印象があるため
- ・教育の準備は楽になっても教育は楽にならない。
- ・業務効率化はあると思いますが、資料作成などの準備に時間がかかるようになった
- ・結局、どこにいても仕事がいくらでもできてしまう。
- ・仕事量が多い
- ・時間がかかるのは事務作業であり、書類作業の ICT 化は進んでいないため
- ・時間は短縮し効率よくできるかもしれないが、その分質が下がると感じる。
- ・実質準備等に時間がかかる。
- ・診療時間外で業務を行うしかない実態である
- ・推進と効率化は別の問題
- ・問診票や同意書確保などは紙媒体のアナログ作業が多く、電子署名など導入できていない。例えばスマホやタブレットで問診票を記載して記載事項が自動的にカルテに反映できるなどのアプリケーションがなく不便。汎用性と互換性高いソフトを国で作

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

れよと思う。オンライン診療をもっと使えばいいのに導入してない。大まかな予約時間のオンライン配信して若い人は順番まで暇つぶししているようだが、電子機器が使えない老人が圧倒的に多くICT化の意味がない。結局採血待ちや、診療待ちでキレる患者が一向に減らない。教育や研究はオンラインで効率化できていると思う。

**ほとんど感じない

- ・ 24時間、どこでも常に仕事が可能になったことは報告できない労働時間の増加を招いている。
- ・ ICTがわかりません
- ・ ICT化が進んでいない。
- ・ ICT化の意味が分からない。ICT化とはどういう意味でしょうか？
- ・ オンラインシステムが機能してない分野が沢山ある
- ・ それを推進しようとしていない医師が多くいるため、
- ・ 業務量は変わらない
- ・ 結局管理者(経営者)により調整が入り、勤務時間として除外時間とされるから。
- ・ 現時点ではあまり変化を感じないため。
- ・ 効率化ではある、ただ work life balance という点ではどこでやると決めないと終わりが無い。
- ・ 出なければならぬ研修や会議が増えており時間の制約は増えました
- ・ 大して役に立っていないから

医員・女性

**感じる

- ・ カルテがリモートで見られるようになればかなり業務の効率は up すると思う。
- ・ それぞれの会議をオンラインですることにより移動時間が削減され、日々の隙間時間にも行えるようになり、効率的になった。
- ・ 移動にかかる時間が削減され、人を待つという場面が減るため。
- ・ 遠方の学会でも、参加しやすくなる。
- ・ 会場までの往復時間が節約できるだけで大きな違いがある
- ・ 学会参加はともしやすくなっているので、おそらく寄与すると思うから。
- ・ 活用の仕方次第だが、今までは直接赴いていたり、時間をかけて整理していたものが軽減されると嬉しい。
- ・ 現地に移動する時間やお金が削減できる
- ・ 効率化された業務内容が浸透すれば、改善に寄与すると思う
- ・ 効率化には非常に良いと思う
- ・ 効率的に仕事が処理できるから
- ・ 今までもそうだったから
- ・ 参加しやすくなる
- ・ 参加場所を問わず、移動時間の短縮になる
- ・ 時間や場所を問わず行える領域が増えているから。
- ・ 自宅での業務、講演会参加などが可能になったこと
- ・ 自宅でも参加することができる
- ・ 実際、現状では時間短縮できている
- ・ 集まる必要がない。
- ・ 書類作成など、効率化できる点が多いため。
- ・ 情報をえる機会が増えたことにより、効率化はできていると思います。
- ・ 職場にいなくても仕事ができるから。
- ・ 同じことの繰り返し省ける
- ・ 本来の医業以外の業務負担が軽減できる可能性がある
- ・ 無駄が省けるのは助かります。

**やや感じる

- ・ web 会議など勤務時間内に行うのであれば寄与すると思う。
- ・ うまくシステムが構築されれば、残業も減り、みんなが働きやすい環境になる可能性は秘めていると思うから。ただ、すぐには無理だと思うし、小規模の病院では体制を変えることが難しい印象。
- ・ リモートで行うことで移動時間の削減に寄与でき、自宅でも参加可能なものが増える一方、今まで物理的に不参加であったも

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

のも参加可能となったことで業務が増えた部分もある

- ・ 移動による負担が減り、業務の効率化につながる感じる。
- ・ 移動時間や特定の時間帯の拘束がなくなるから
- ・ 移動時間を節約できるため
- ・ 学会や講演会への移動時間は短縮された
- ・ 機械的に行える部分が任せられれば、業務の減少につながると思うから。
- ・ 業務の効率化に期待はしている
- ・ 研究や教育の効率化にはつながるだろうが、その分質も落ちるように思う
- ・ 現地への移動の時間が減る。
- ・ 講演会への移動などに必要であった時間を効率的に利用できるため
- ・ 雑務が減る
- ・ 時間はかかりそう。
- ・ 時間を有意義に使える
- ・ 自由が効くと思うから
- ・ 書類仕事が自動化されると時短になる
- ・ 場所に制限が少なくなると思うから
- ・ 場所を選ばず、隙間時間にこなすことができるため。ただ水面下での時間外労働が増える可能性も高い。
- ・ 診療においてはまだ手書きの書類や FAX での業務が多く、非効率的。今後に期待
- ・ 正直わからない
- ・ 単純に作業量が減りそうだから。
- ・ 電子カルテは紙カルテに比べて便利だと思う。ただ、そもそも医療現場は一般企業などに比べればあまり ICT 化が進んでいるとは思えない。
- ・ 内容によるが個人の時間の采配に自由が生まれるため。
- ・ 便利ではあるが、デバイスの選択などによっては手間が増えてしまう。
- ・ 無駄に時間を合わせたり、現場へ赴く必要がなくなり、効率化を図れると思う

**あまり感じない

- ・ web 上で参加することが増えた分、時間外に研鑽(学会に参加しても業務ではないと判定される)することが増えたから。
- ・ あまり効率的になるよう仕えていない
- ・ いくら ICT 化が進んでも対面を好まれる機会が多く、コストもかかり限界はあると思うから
- ・ カルテ業務は減るかもしれないが、その分安全関連で必要なものが増えたりするので。
- ・ 関係ないと思います。
- ・ 教育や研究においては受ける側には恩恵があると思うが、オンライン講義であったとしても講義の準備をしたりする時間が必要であり、講義の動画撮影や資料のアップロードなど、準備にかかる手間が減るわけではなく、むしろ増えたのでは。勤務時間の削減には何も寄与していないと感じる
- ・ 勤務時間などには直接的な影響はないと感じているため。
- ・ 使いまわしが出来るシステムなど効率化の遅れ
- ・ 事務職員が担う仕事を増やしてほしい
- ・ 手書きのほうが早いこともあるから。
- ・ 働き方は変わってないから。
- ・ 必要仕事量に変化がないから
- ・ 麻酔は手で行う部分が多いためあまり変わらない
- ・ 余計な入力が増えるだけ

**ほとんど感じない

- ・ まだ実感していないため

医員・回答しない

**やや感じる

- ・ 資料のやり取りや現地への移動などの作業が減り、また、共有がしやすくなったため、勤務時間の削減や効率化はよくなっていると感じる。

44. ICT 化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

専攻医・男性

**感じる

- ・ アナログから脱却することで、やらなくていい仕事を業務時間内にやらなくて良くなるため
- ・ テレワークにより移動時間が減るため。
- ・ 移動時間が省けるため
- ・ 会議がオンラインだと時間が使いやすくなる。自宅から参加も可能になる。
- ・ 効率が良くなる。
- ・ 効率良くなったと思う
- ・ 今まで学会などで遠方の地域まで行かなければならなかったのが、オンラインで簡素化された
- ・ 作業効率化のため
- ・ 参加しやすくなった為。
- ・ 時間管理がしやすい。
- ・ 書類提出や処方などのミスも減る
- ・ 場所の制限がないのは時間短縮になる
- ・ 絶対的に推進せねば現場が崩壊する。
- ・ 全てがフレキシブルになった
- ・ 同じ場所に集まる必要がない
- ・ 無駄な時間を減らせる
- ・ 無駄な書類や事務作業等は削減されそうだから
- ・ 問診の電子化、診療補助ツールなど
- ・ 利用方法によるが、無駄な時間を減らし、また効率的にデータの解析ができるから。

**やや感じる

- ・ ICT 化が円滑になれば、仕事内容が明確になり時間短縮につながると思われる。ただし ICT 化の途上段階においては、ICT 化に慣れることそのものが枷になり、かえって作業効率の低下になるとも考えるから。
- ・ オンラインカンファレンスなど
- ・ カンファレンスなどの際に現地に行く時間などが削減されたり、プレゼンテーションの資料の共有が比較的簡易となったため。ただ電子カルテの閲覧などより改善の余地はあると考えている。
- ・ これは難しい問題である。よき道具があってもそれを使いこなせなければ意味が無いのだ。パソコン、IT の発達で逆に増えた業務もあるだろう。カルテに遊ばれているベテラン医師をよく見かける。日本社会は、まだ真なる IT 化の波に乗れていない。
- ・ システム化にて無駄な部分を省けるようになれば寄与しようとする
- ・ すでに記載済みです。
- ・ もっと ICT 化が浸透しないと分からない。
- ・ 移動時間を考えないで済むので、他のことに時間を使える
- ・ 移動時間等の削減に寄与出来ている。
- ・ 運営側が書類に固執せず完全に電子化を進めていければよりよく感じると思う。現在はハイブリッドのようでその実マニュアルと電子のそれぞれの面倒臭いところだけを取っている(例えば稟議書を一度ダウンロードしサインとハンコを押した PDF 化し送付、原本も後で送るなど)
- ・ 業務に費やす時間が増えるため。
- ・ 業務の効率化には有効だと思う。
- ・ 業務時間短縮につながる
- ・ 効率化が進むと考えます。
- ・ 効率化に寄与するから。
- ・ 雑務(事務作業)が減少すれば改善できる
- ・ 人間が気づくことのできない点に機械が気づくことができると思う。現地開催、対面である必要がなくなり、効率が良くなった。
- ・ 多少時間の節約になった。
- ・ 導入の手間を超えればよいと思う
- ・ 本質的な業務量は変化ない
- ・ 無駄な作業をしなくて済むから
- ・ 余計な時間の削減ができる

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

**あまり感じない

- ・ ICTも使いこなせなければ煩雑な部分が多く、将来的にはより効率化されると思われるが、現時点ではあまり感じない
- ・ まだ実際に恩恵を感じたことがないから
- ・ 医学にかぎらず、すべての学問は効率化した分、その余した時間を他に費やし、新たに何かに取り組むべきで、そこから新たな発見や発明が得られると思うから。
- ・ 勤務時間管理がわずかに効率化されるくらいでは
- ・ 効率化の一方で結局余計な業務も増える、紙より電子カルテのほうがいいのはもちろんだが。
- ・ 行うべき業務は一緒のため
- ・ 今のところ恩恵を受けていない
- ・ 実感自体がない
- ・ 電子カルテが進化していない

**ほとんど感じない

- ・ 教育、研究には携わっておりません。
- ・ 形だけのような気がする。結局仕事量が変わってないので。
- ・ 今年から赴任しており、比較検討は難しい。
- ・ 実感ないため
- ・ 変わらなかったから

専攻医・女性

**感じる

- ・ ICT化されるものが増えてきたことで、勤務や生活の状態に応じてタスクをこなしたり、講義・研修を受けたり、学会参加ができるので、時間や移動の無駄が減り、効率よく時間を使えるようになった。
- ・ コロナチームの診療以外の仕事はフローチャートのシステム化などにより人力でなくても対応可能
- ・ とうかそうなるようなICT化をしなければならないのでは
- ・ 移動という無駄な時間を削減できた
- ・ 移動時間を省ける
- ・ 教育はオンラインだと参加しやすい
- ・ 業務効率化には寄与すると思う。しかし勤務時間削減に関しては医師の事務作業もどんどん増えているので、うまく手分けをしないと医師の負担が大きくなると思う。
- ・ 効率よくなり、さらにミスを起こしにくくなっていると感じる。
- ・ 効率良くなった
- ・ 仕事量減りそう
- ・ 場所や距離の制約がなくなるため効率はあがるように思います
- ・ 場所を選ばず参加できるので今まで足を運んでいた時間等が節約されて効率よく時間を使えるようになった。
- ・ 情報共有しやすいため、より多くの情報を得る機会が増えると思うから。
- ・ 物理的な移動や紙ベースでのやり取りが減るので明らかに寄与する
- ・ 無駄なタスクが減るから

**やや感じる

- ・ アンケートなどを上手く利用すると、効率よく診療が可能になると思うため
- ・ オンラインベースでの業務のほうが、即時性があり、やり取りもスムーズにできている。
- ・ システムが浸透すれば時短になると思う
- ・ すきま時間を効率よく使うことができると思うから。
- ・ 移動時間の短縮による効率化に寄与できる
- ・ 移動時間やオーダーの簡易化、ルーチン業務の簡略化に寄与している
- ・ 医局内専用のライングループを活用することで、スムーズな情報共有が可能になったからです。
- ・ 時間効率が良くなったため
- ・ 特に事務作業は紙より時間短縮を促進できるから。直接現地に行かなくても、できる仕事や勉強が増えるから。
- ・ 不要なものを省略できると思います

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 赴く労力が削減されるため
- ・ 無駄がなくなりそうな気がするから。
- ・ 無駄な作業が減ると思われるから

**あまり感じない

- ・ ICT化によるペーパーレスは進んでおらず、むしろ現場への負担は増えていると思う。
- ・ ICT化を導入するための業務が増える可能性がある。
- ・ 現時点で変化なし
- ・ 事務員削減により、医師の仕事量は変わらないか、むしろ増えている

**ほとんど感じない

- ・ 職場以外での労働を余儀なくされるから。
- ・ 当院のカルテはオリジナル(?)のため、ICT化を進めるほどに効率が悪くなっているから。

臨床研修医・男性

**感じる

- ・ 移動などの負担軽減が期待されるため。
- ・ 移動時間や待機時間が減るので
- ・ 業務の確認に割かれる時間が大分短縮されると思います。
- ・ 時間効率が良くなる
- ・ 時間短縮できる

**やや感じる

- ・ レクチャーや研究についてはICT化による効率化がメリットとして働いていると考える
- ・ 医師が手作業で行っている連絡作業をICTを使えば簡易にできるようになると思う。
- ・ 教育において時間削減につながる場面が多いため。

臨床研修医・女性

**感じる

- ・ オンラインでの学びへのアクセスが良好になると考えるため。
- ・ 時間が効率的に使えるから
- ・ 自宅から移動せずに会議に参加しやすくなった
- ・ 色々な勉強会に参加できる。

**やや感じる

- ・ 教育において、自宅での参加も可能になる
- ・ 時間の短縮、効率が良くなるため

**ほとんど感じない

- ・ 研修医一年目だから

その他の医師・男性

**感じる

- ・ これまで遠方の学会に参加する場合数日間業務を休む必要があったが、ICT化により通常の業務をこなしながらの参加ができるようになったので業務面で効率化が得られた。
- ・ そのままの意味で
- ・ 移動の時間を減らすことができるのは良い。
- ・ 紙媒体では効率が悪い
- ・ 情報共有がしやすくなるため。
- ・ 日本の医療機関はあまりにデジタル化が遅れているので、改善する余地は大きくあると思われる。
- ・ 無駄な事務作業を減らせると思うから。

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

- ・ 子供を迎えに行き、子供たちの食事や風呂が終われば自宅であれば仕事ができる人が多いと思うから
- ・ 無駄を省けるため

**やや感じる

- ・ 移動時間の短縮
- ・ 効率的に業務をすすめることができると思う。
- ・ 時間が増えた
- ・ 自宅からの参加が可能となった
- ・ 情報収集・伝達速度がはやい
- ・ 必ずしも現地参加しなくても良い会もあると思う。
- ・ 普及すれば効率化できると思う。
- ・ 無駄な時間の減少効果
- ・ 有効に時間を使う

**あまり感じない

- ・ まだ慣れないため有用性を実感できない。
- ・ 将来的には改善するかもしれないが、いまだに紙文化が抜けていない印象
- ・ 他の人の負担が増える

**ほとんど感じない

- ・ 結局電子カルテ以上の ICT 化は全く進まないと思うから。

その他の医師・女性

**感じる

- ・ ICT 化に伴い業務の見直しが行われ無駄なものが減った
- ・ オンデマンド配信などはスキマ時間を使って利用でき、業務の効率化や自らのスケジュールリングの質の向上に繋がっていると感じる。
- ・ 移動時間がなくなり生産性が高まった。
- ・ 遠隔診療(読影)により、放射線科医不在の病院でも緊急読影によりリアルタイムで診断していただけるようになり、早期治療介入に繋がり診療の業務効率化につながる。電子カルテを用いることにより、多量の患者さんの情報を効率的に収集することができ、診療や教育、または臨床研究の質の向上に繋がる。
- ・ 現場にいないことができなくても動向を把握することができるため時間削減や効率化につながると思う

**やや感じる

- ・ オンライン診療
- ・ 業務の効率化、時間短縮にはつながる
- ・ 効率よく仕事をすすめられることが期待されるため。
- ・ 効率化できる所は進んでいきそうだから。
- ・ 効率的になりそうだから
- ・ 重複していた部分などが整理されるとよいと思います
- ・ 便利になるのではと予想する

**あまり感じない

- ・ 削減された分、他の仕事が増えるだけであるから
- ・ 実感できていない

**ほとんど感じない

- ・ 関係ないと思います。
- ・ 議論がしづらく、むしろ勤務時間や業務効率化にはマイナスだと思う。

その他の医師・回答しない

44. ICT化の影響により「教育」「研究」「診療」において勤務時間削減や業務効率化に寄与すると感じますか【記述】

**あまり感じない

- ・ オンラインに登録したり、e-learning の多用など重要と思われない時間が多くなっている。

その他(特任研究員など)・男性

**感じる

- ・ オンラインでできることが増えれば時間が増えるので
- ・ ムダが減る。ただし、効率や生産性を考える土壌があつてこそ。
- ・ 手書きの書類などが減り実質業務量が減ったため。
- ・ 出張による移動の減により、それに割く時間を他の業務に割りあてられるため。
- ・ 無駄を省ける

**やや感じる

- ・ 移動にかかる費用と時間は浮かすことができる。
- ・ 診療の時短化が起こる可能性

その他(特任研究員など)・女性

**感じる

- ・ ICT化が進む仕事はなにかしら“作業”が多いと思うので、その分に割いていた時間は単純に減ると思う。
- ・ 移動時間がなくなるだけでもかなり大きいと思います。オンライン診療も盛んになれば、例えばお薬をもらいにくるだけなど通院するだけでも大変な患者さんは沢山いらっしゃいますので、その点は患者さん達にとってのメリットになると思います。

**やや感じる

- ・ グローバル化がこのまま進めば、勤務時間削減に繋がると思う。
- ・ どのようにどのくらい進化するかによって変わってくると思う。
- ・ 移動時間が減るため
- ・ 移動時間等の負担が軽減できるから。
- ・ 効率化がすすむ
- ・ 自分の時間に合わせて受講できる

**あまり感じない

- ・ いま感じていないから
- ・ 医師の仕事自体は減っていない、むしろ医師のみでこなす仕事が増えているように感じる。
- ・ 休みや夜勤明けでも参加できる、させても管理者が悪いと思わないから
- ・ 手間が増える、必要な機材のコスト負担
- ・ 変化の実感がない